

平成23年度 業務実績報告書

及び中期目標期間(平成18年度から平成23年度まで)業務実績報告書

平成24年 6 月

公立大学法人九州歯科大学

中期目標期間（平成18年度から平成23年度まで）における実績概要

I 全体概要

本学は、全国唯一の公立歯科単科大学であるという特色を活かし、中期計画において、優秀な歯科医療人を育てる教育、教育や社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。

この実現に向け、法人化のメリットを最大限に活かし、理事長のリーダーシップの下、主体的、自律的な大学運営を進める体制を確立し、人事の適正化、経営者の視点に立った財務運営、適正な評価制度の整備等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。

II 項目別概要

1 教育

学部長のリーダーシップの下、教務部会が中心となり、FDを通して「教育方法の改善」及び「カリキュラム改編」を中心に教育力の向上に努めた。さらに、九州歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出することに傾注し、国家試験合格率の向上を目指した。

学部長の下、教授会・教務部会・学年主任制度が一丸となって、学部教育に取り組んだ。

九州工業大学との歯工学連携大学院プログラムは順調に発展しており、単位互換制度を活用する学生が増加している。

平成22年度に開設した口腔保健学科は、1,2年次生教育を進めてきた。

2 研究

中期計画に掲げる大学の教育や社会の発展に役立つ研究活動を進めた結果、外国雑誌掲載の研究論文や国際学会での発表数、さらに外部資金獲得金額も中期目標期間を通じて目標を上回った。

九州工業大学との歯工学連携も順調に成果を出しつつあり、ソウル大学・九州歯科大学・九州工業大学の3大学合同で国際シンポジウム（九州歯科大学主催）を開催し、歯工学連携の研究成果を世界に向けて発信することができた。

3 社会貢献

中期計画に掲げている地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施に向けて、中期目標期間を通じて様々な取組を行った。

平成21年度から開始した附属病院の診療科再編を終え、地域中核病院としての体制を強化した。特に、病診連携体制を充実させ、患者紹介率の向上を目指した。

さらに、ネパール歯科医療協力隊の活動を継続し、海外における歯科保健活動を展開した。

平成22年度からは、学部学生にこの活動への参加を呼びかけ、アジアにおける歯科保健活動を経験させることにより教育にも貢献できた。

4 業務運営等

業務運営については、大学の教育研究目標に沿って、弾力的かつ計画的な人員配置、予算配分を行った。

目的積立金を活用し、附属病院において設備更新計画に基づく機器の更新や設備の改修等を順次行っていった。

事務の効率化を図るために、業務の外部委託を進めた。

事務局機能の強化に向け、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員採用計画を策定した。

財務については、人件費の適正な管理や、外部資金の積極的な獲得などにより、安定的に運営してきた。

病院収入に関しては、診療報酬額の伸び悩みという問題もあるが、患者紹介率の向上や訪問診療の件数の伸びといった成果も見られている。

また、SPD（物品供給管理システム）による診療材料費の節減は、着実に効果が現れてきている。

評価については、外部認証評価において、独立行政法人大学評価・学位授与機構による認証評価を受けた結果、「基準を満たしている」という総合評価を受け、「改善を要する点」として指摘を受けた事項はなかった。

また、福岡県公立大学法人評価委員会の評価結果については、毎年、全学説明会で周知し、特に評価が低かった項目についてはその対応を検討し改善を図ってきた。

個人業績評価に関しては、適宜評価方法を見直すことによって制度の充実を図ってきており、給与支給にも反映を行っている。

情報公開については、中期計画に掲げる情報公開等の推進と個人情報保護の遵守を完遂すべく、中期目標期間を通じて様々な取組を行った。

教育研究活動情報の公表の義務化に向け、広報・情報委員会に専門部会を設置し、公立大学協会のガイドラインに沿って準備を行い、平成23年3月末にホームページでの公開及び公立大学協会ホームページへのリンクが完了した。

教職員に対しては、毎年研修会を開催し、情報公開の意義や個人情報保護の重要性等の啓発を行った。

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設 10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格 昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止) 24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格 平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力 はもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 ・適性のある優秀な人材の確保・育成 ・教育の質の改善 ・学生への支援 2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準並びに研究成果の向上 3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の改善 ・人事の適正化 5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己収入の増加 ・経費の抑制 ・附属病院経営の改善 6. 評価: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の充実 7. 情報公開: 情報公開を積極的に推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	福田 仁一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 学長
副理事長	志波 朋和	平成22年4月1日～平成24年3月31日	ホクシン(株)代表取締役副社長
常務理事(事務局長)	亀川 正知	平成23年5月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	大家 重夫	平成22年4月1日～平成24年3月31日	久留米大学法学部特任教授
理事(学外)	利島 康司	平成23年4月1日～平成24年3月31日	北九州商工会議所会頭
理事(学内)	西原 達次	平成22年4月1日～平成24年3月31日	歯学部長(感染分子生物学分野教授)
理事(学内)	寺下 正道	平成22年4月1日～平成24年3月31日	附属病院長(総合診療学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	平成22年4月1日～平成24年3月31日	広瀬公認会計士事務所 所長
監事	配川 壽好	平成22年4月1日～平成24年3月31日	若戸法律事務所 弁護士

(2) 教員

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
教員数	常勤(正規)	121人	119人	119人	116人	120人	120人	
	内訳	教授	22人	24人	23人	22人	25人	26人
		助教授	19人	—	—	—	—	—
		准教授	—	16人	15人	16人	18人	20人
		講師	18人	16人	16人	14人	10人	8人
		助教	—	63人	65人	64人	67人	66人
	助手	62人	人	人	人	人	—	
非常勤講師	128人	136人	134人	135人	144人	173人		
合計		249人	255人	253人	251人	264人	293人	

教員数増減の主な理由

口腔保健学科の在籍が2学年までとなったことにより、授業のコマ数も増えたため、非常勤講師が増加している。

(3)職員			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	66人	52人	52人	41人	38人	36人
		プロパー	人	11人	11人	18人	24人	24人
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人
		その他	人	人	人	人	人	人
		計	66人	63人	63人	59人	64人	60人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	49人	59人	57人	55人	54人	61人	
	合計	116人	122人	121人	115人	117人	122人	

職員数増減の主な理由

嘱託職員増の理由: 附属病院における薬剤師及び看護師の補充増加によるもの。

(4)法人の組織構成

歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局

3. 学生に関する情報

関連する 学部・大学 院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
大学	計	715人	699人	94%	95	96	95	94	96	94
内訳	歯学部	595人	613人	99%				100	100	99
	歯学科	570人	563人	99%	103	103	101	100	99	99
	口腔保健学科	50人	50人	100%					100	100
大学院	歯学研究科	120人	86人	72%	58	64	70	70	79	72

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

歯学部歯学科: 年度途中で退学した学生がいたことによるもの。

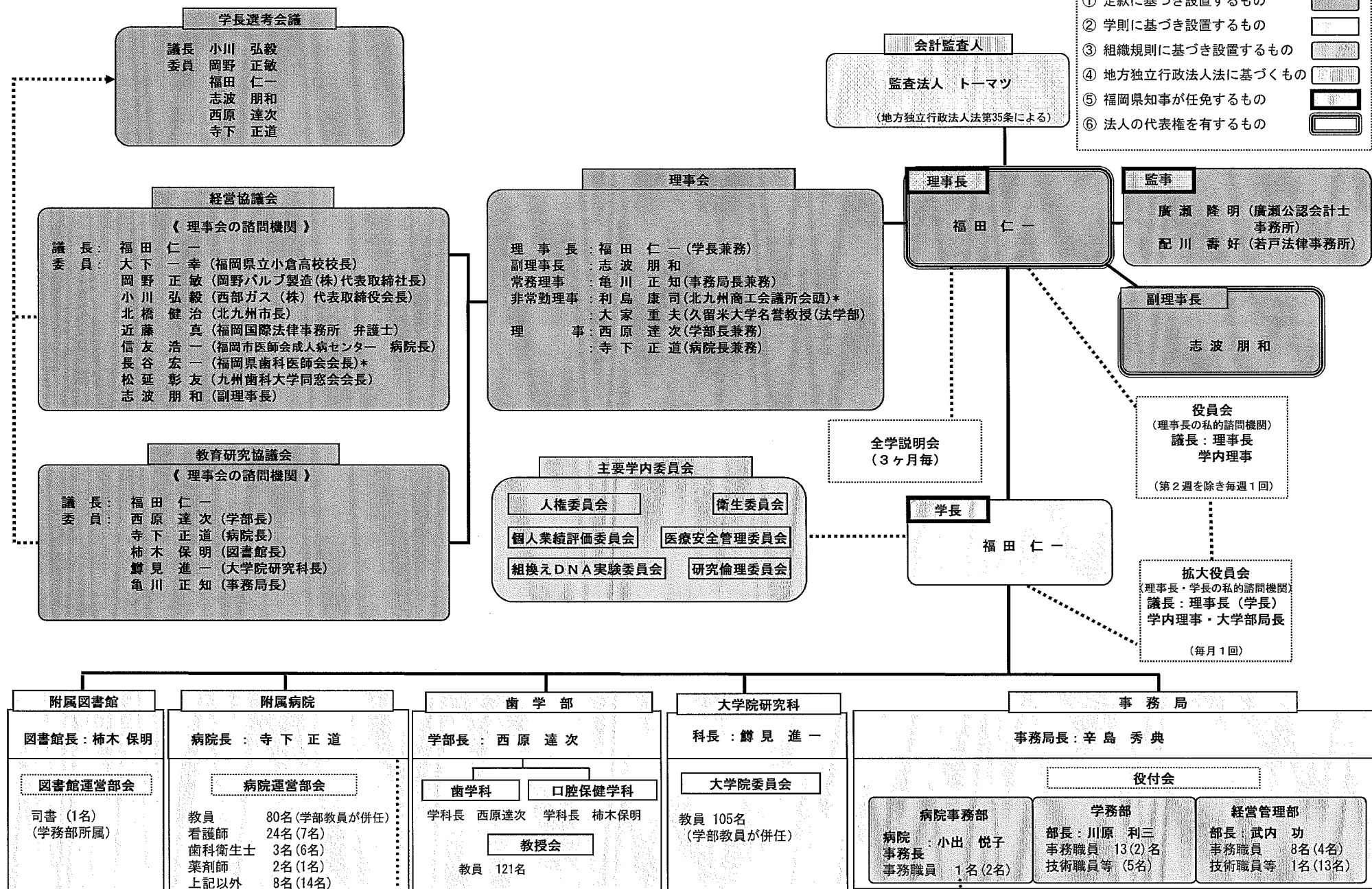
大学院: 大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていることによるもの。

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	福田 仁一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学理事長
副理事長	志波 朋和	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学副理事長
学外委員	岡野 正敏	平成22年4月1日～平成24年3月31日	岡野バルブ(株)代表取締役社長
	大下 一幸	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡県立小倉高校校長
	信友 浩一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡市医師会成人病センター病院長
	北橋 健治	平成22年4月1日～平成24年3月31日	北九州市長
	近藤 真	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡国際法律事務所 弁護士
	小川 弘毅	平成22年4月1日～平成24年3月31日	西部ガス(株)代表取締役会長
	松延 彰友	平成22年8月5日～平成24年3月31日	九州歯科大学同窓会会長
	長谷 宏一	平成23年4月1日～平成24年3月31日	福岡県歯科医師会会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	福田 仁一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	西原 達次	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 歯学部長
学内組織の長	亀川 正知	平成23年5月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	寺下 正道	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 附属病院長
	柿木 保明	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長
	鱒見 進一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長

公立大学法人九州歯科大学の組織図

平成23年5月1日現在

- 凡例-
- ① 定款に基づき設置するもの
 - ② 学則に基づき設置するもの
 - ③ 組織規則に基づき設置するもの
 - ④ 地方独立行政法人法に基づくもの
 - ⑤ 福岡県知事が任免するもの
 - ⑥ 法人の代表権を有するもの



教職員数は平成22年4月1日現在

(囁託・委託職員数)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 1 教育	<p>「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する」</p> <p>(1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、高度な専門性を持ち先端医療を担える能力、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。</p> <p>(2)教員の教育能力の向上 教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。</p> <p>(3)優秀な学生の確保・育成 大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に九州歯科大学の魅力を広げ伝える。また、特待生制度の導入、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。 シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。</p> <p>(4)歯科医師国家試験合格率の向上及び就職支援の充実 学習相談などの学生の学習に対する支援を充実し、歯科医師国家試験合格率の向上に取り組むとともに、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。</p>
--------------	--

項目	実施事項	平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号															
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期	年度														
1 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 社会及び疾病構造の変化に対応できる人材を育成する。 ・医の倫理観、豊かな人間性、良好なコミュニケーション能力、広い視野を持った歯科医師及び歯科衛生士を育成する。 ・歯科医師及び歯科衛生士として必要な基礎的な医学歯学の知識を持った人材を育成する。 ・学んだ知識・技術を生かし、臨床現場で最善の診断と治療ができる能力を育成する。 ・高度な治療技術のみならず、専門的な知識を併せ持った歯科医師を育成する。	1【コミュニケーション能力、倫理観、探求心の育成】 ①患者の痛みを理解し、意思疎通ができる能力を養成するため医療行動学をはじめ、心理学、哲学などの素養教育を充実する。 ②高い倫理観を持った歯科医師及び歯科衛生士を育成するため、医の倫理を主とした倫理学といった素養教育を充実する。 ③学生が主体的・能動的に学習し、探求心を身につけるためテュートリアル教育を充実する。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60%以上 ・学生による授業評価:4以上60%以上 ・個人業績評価(授業活動):B以上80%以上	1-1【平成23年度計画】 ○素養教育の一層の充実につとめ、学生の学習意欲を高めるカリキュラムを作成する。 ・FD活動を継続し、初年度教育を充実させる。 ・選択科目(26科目)の内容を充実させ、学生の学習意欲を高める。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 ・同僚による授業評価 4以上 60%以上		2	【平成23年度の実施状況】 ○FDで、「初年度教育の充実」といったテーマのワークショップを開催し、歯科医療人教育における導入教育の重要性について認識を高めた。 ○口腔保健学科と歯学科の学生合同で開講した基礎生命科学実習Ⅰ,Ⅱに、動物解剖実習を入れてさらに充実させた。 ○目標実績 ・学生の成績 良以上 71.4% ・学生による授業評価 4以上 18.2% ・個人業績評価 B以上 27.2% ・同僚による授業評価 4以上 90.0% ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>同僚による授業評価4以上</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>87.50%</td> <td>77.70%</td> <td>87.50%</td> <td>90.00%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	同僚による授業評価4以上	-	-	87.50%	77.70%	87.50%	90.00%		B			1
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																		
同僚による授業評価4以上	-	-	87.50%	77.70%	87.50%	90.00%																		

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																																										
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																								
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般教育科目において、新たにコミュニケーション能力開発と倫理観の醸成につながる科目(歯科医師入門Ⅰ、Ⅱ)を開講した。(H18) 自ら考えて問題を解決する能力を培うテュートリアル教育を平成18年度以降本格導入し、継続的に取り組んでいる。(H18-23) 北九州地区4大学連携を活用し、非常勤講師による、中国語・韓国語(第2外国語)を開講した。(H19) 素養教育担当教員に対して、FDを通じて、教育法の改善を求めた。選択科目の非常勤講師に対しても、学部長が大学の教育方針を説明し理解を求め、歯科医学に興味を感じるような内容を組み込んだ。その結果、学生満足度が1、2年次選択科目で0.25アップ(H20実績:3.36 →H21実績:3.61)した。(H21) 選択科目の中で、歯科医学につながる素養科目を充実させた。(H21) 口腔保健学科と歯学科の合同で、基礎生命科学実習Ⅰ、Ⅱを開講した。(H22) 生物系授業及び前年度に導入した基礎生命科学実習Ⅰ、Ⅱの充実を図った。(H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>68%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>76%</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td> <td>36%</td> <td>51%</td> <td>38%</td> <td>38%</td> <td>25%</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>-</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>33%</td> <td>25%</td> <td>27%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	68%	73%	73%	73%	76%	71%	学生による授業評価4以上	36%	51%	38%	38%	25%	18%	個人業績評価(授業活動)B以上	-	50%	50%	33%	25%	27%	B			中期 1														
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
学生の成績良以上	68%	73%	73%	73%	76%	71%																																													
学生による授業評価4以上	36%	51%	38%	38%	25%	18%																																													
個人業績評価(授業活動)B以上	-	50%	50%	33%	25%	27%																																													
1.	2【歯科医師及び歯科衛生士として備えるべき基礎的知識に関する教育の徹底】 学生が確実に知識および技術を身につけられるよう、教育方法の工夫・改善を行う。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60%以上 ・学生による授業評価:4以上60%以上 ・個人業績評価(授業活動):B以上80%以上	2-1【平成23年度計画】 ○歯科基礎教育において統合化された授業の内容の充実にも努める。 ・一般基礎医学および歯科基礎医学の教育内容について、相互に意見交換を行う。 ・基礎と臨床の一体となった問題解決型テュートリアル教育を促進する。 ○数値目標 ・今後の共用試験CBT得点率70%以上を目指す。 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 ・同僚による授業評価 4以上 60%以上	1		<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 口腔保健学科の歯科基礎科目については、歯学科の合同授業を行なうことで、質的向上を図ることができた。 共用試験CBT得点率において、全国的には72.9%に低下したのに対し、本学では74.04%と高い得点率を示した。 歯周病の基礎教育の中で、一般基礎医学と歯科基礎医学が一体となり、歯周病と全身疾患との関わりをわかりやすく教える方法を検討した。 感染と免疫の3年次テュートリアルで、院内感染を取り上げて、基礎と臨床の両面で学生の理解を深めた。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用試験CBT 得点率:74.04%(全国平均72.9%) (22年度実績 得点率:76.1%(全国平均73.4%)) 学生の成績 良以上 67.2% 学生による授業評価 4以上 24.1% 個人業績評価 B以上 35.0% 同僚による授業評価 4以上 35.0% <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>同僚による授業評価4以上</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>70.00%</td> <td>90.00%</td> <td>70.00%</td> <td>35.00%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	同僚による授業評価4以上	-	-	70.00%	90.00%	70.00%	35.00%	A			2																												
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
同僚による授業評価4以上	-	-	70.00%	90.00%	70.00%	35.00%																																													
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部長主導のもと、古典的な区分「解剖学」、「口腔解剖学」、「生理学」、「口腔生理学」、「生化学」といった枠組みを「基礎生命科学」および「口腔基礎生命科学」に統合し、学生に分かり易いカリキュラム編成にした。(H18-19) 本館に新設した「相互実習室」、「シミュレーション実習室」で態度教育実習を開始し、ロールプレーなど新たな教育手法を導入した。(H19-23) 3年次の「感染と免疫Ⅲ」及び「感染と免疫Ⅳ」において、「微生物学」、「薬理学」、「予防歯科学」、「内科学」を軸とした、感染症に関するテュートリアル教育(4単位)を行った。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>63%</td> <td>67%</td> <td>66%</td> <td>66%</td> <td>69%</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td> <td>23%</td> <td>20%</td> <td>25%</td> <td>35%</td> <td>30%</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>36%</td> <td>50%</td> <td>48%</td> <td>48%</td> <td>24%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>CBT平均正答率(九州歯科大)</td> <td>83%</td> <td>80%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>(全国平均)</td> <td>78%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	63%	67%	66%	66%	69%	67%	学生による授業評価4以上	23%	20%	25%	35%	30%	24%	個人業績評価(授業活動)B以上	36%	50%	48%	48%	24%	35%	CBT平均正答率(九州歯科大)	83%	80%	76%	76%	76%	74%	(全国平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%	A			中期 2
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
学生の成績良以上	63%	67%	66%	66%	69%	67%																																													
学生による授業評価4以上	23%	20%	25%	35%	30%	24%																																													
個人業績評価(授業活動)B以上	36%	50%	48%	48%	24%	35%																																													
CBT平均正答率(九州歯科大)	83%	80%	76%	76%	76%	74%																																													
(全国平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%																																													

中期計画		平成23年度計画	ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																										
1.	3	【的確な判断能力、治療技術力の育成】 ①豊富な事例を通して、患者の訴えや症状から、疾病原因の正確な診断や最適な治療方法を見出すことのできる能力を身につけさせる。 ②臨床実習において、技術力や診断能力が身につけているか厳格に評価する。 ③歯科臨床に対する高い意識と研究心を養うため、研究室配属を5年生すべてを対象に行う。(歯学科のみ) ④卒業論文指導を通して研究心を養う。(口腔保健学科のみ) ⑤医療に携わる者としての使命感を育成するため、口腔保健活動や救急車同乗実習などを充実させる。 ⑥医療経営および社会保険制度に関する教育を充実させる。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上80%以上 ・学生による授業評価:4以上80%以上 ・個人業績評価(授業活動):B以上80%以上	3-1	【平成23年度計画】 ○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。 ・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3,4年次)を統合化する。 ・臨床基礎実習の統合化を図る。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 80%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	2	【平成23年度の実施状況】 ○保存・補綴系の臨床基礎教育を統合した臨床推論の講義を引き続き開講し、病院における臨床実習へのスムーズな移行を図った。 ○AVコンテンツのライブラリー数を増やし、高齢者の口腔ケアの分野を充実させた。 ・AVコンテンツ使用率70% ・OSCE合格率:100% ○目標実績 ・学生の成績 良以上 90.1% 5年生成績 ・学生による授業評価 4以上 60.0% 3~4年講義 ・個人業績評価 B以上 35.0%	A	5,6年次生で行っている参加型臨床実習を効果的に行えるように、AVコンテンツを利用した臨床基礎実習を3,4年次生を対象に行った。 新たに作成したAVコンテンツによる実習の満足度については、高齢者の口腔ケアのコンテンツを見た学生の多くが、「高齢者の口腔内環境の悪さを実感できた」といった評価が得られた。		3																											
				2	【中期目標期間の実施状況】 ・附属病院における臨床実習書を改訂し、参加型統合実習を充実させた。(H18-19) ・本館に新設したシミュレーション実習室および技工実習室におけるビデオコンテンツを開発し、AVシステムによる実習を開始した。(H20) ・H18年度から北九州市の協力を得て、5年次生の救急車同乗実習を開始した。 ・5~6年次生における病院臨床を統合化し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上(H20年:40% →H23年:50%)させた。5~6年次生の統合型臨床実習を充実させ、「総合歯科外来」では、全ての学生が参加型実習を行える体制を整えた。(H21-23) ・3~4年次の実習システムを統合し、新たに作成したAVコンテンツ(実習書をモニター画面上で供覧できるシステム)を用いて臨床基礎実習教育を充実し、使用率が70%に達した。(H21-23) ・OSCE合格率:100%を維持した。(H18-23) ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>--</td> <td>81%</td> <td>88%</td> <td>75%</td> <td>87%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td> <td>--</td> <td>34%</td> <td>35%</td> <td>28%</td> <td>25%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>--</td> <td>50%</td> <td>48%</td> <td>48%</td> <td>24%</td> <td>35%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	--	81%	88%	75%	87%	90%	学生による授業評価4以上	--	34%	35%	28%	25%	60%	個人業績評価(授業活動)B以上	--	50%	48%	48%	24%	35%	A	中期計画の計画期間における達成目標の今期実績については学生の成績や学生による授業評価等で、目標値に到達しており、中期計画期間を達して、共用試験OSCE合格率100%を維持することが出来た		中期 3
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
学生の成績良以上	--	81%	88%	75%	87%	90%																															
学生による授業評価4以上	--	34%	35%	28%	25%	60%																															
個人業績評価(授業活動)B以上	--	50%	48%	48%	24%	35%																															
1.	4	【専門医療、高度先進医療を行える人材の育成】 ①高齢者、要介護者の口腔ケアや摂食・嚥下指導のため歯科医師及び歯科衛生士を育成し、摂食機能リハビリテーション分野を充実する。 ②高度な専門性を持ち、先端医療を担える医療人の育成を行うために歯科矯正科、歯周病科、口腔外科等の専門診療部門の教育内容を継続的に見直す。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60%以上 ・学生による授業評価:4以上60%以上 ・個人業績評価(授業活動):B以上80%以上	4-1	【平成23年度計画】 ○附属病院臨床実習書に基づき、臨床実習システムで参加型の比率を高める。 ・「統合教育ユニット」で質の高い参加型実習(5,6年次)を行う。 ・専門外来ユニットにおける臨床実習で、多くの症例を経験させる。 ・口腔保健学科における臨床実習書を作成する。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	1	【平成23年度の実施状況】 ○今年度診療科再編を行い、臨床実習書のポリッシュ・臨床実習システムを改善して、臨床実習における参加型実習の比率を向上させ、多くの症例を経験させた。 ○口腔保健学科の臨床実習において、プリセプターシップの教育概念を取り入れた実習ポートフォリオを作成した。 ○目標実績 ・学生の成績 良以上 90.1% ・学生による授業 4以上 33.3% ・個人業績評価 B以上 33.3%	A	学生の成績が今年度(H23)はさらに80.1%と大幅に上昇し、臨床実習システムの改編が数字として表れてきた。		4																											
				1	【中期目標期間の実施状況】 ・附属病院の「歯科矯正科」、「歯周病科」、「口腔外科」における臨床実習を充実させた。(H18-19) ・専門医療および高度先進医療技術に関する知識を深めるためにポートフォリオ(学生自身が学習達成度を管理するシステム)を導入した。H21年度は60%の診療で活用し(H20:40%)、そこで得た学習達成度ファイルを分析した。(H20-H21) ・統合型臨床実習における専門医療及び先進医療に関する臨床実習を10%(H20:40% →H23:50%)増加させ、口腔がん、顎骨骨折、外科的歯科矯正などを附属病院病棟や手術室で見学する機会を増やした。(H23) ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>67%</td> <td>81%</td> <td>88%</td> <td>75%</td> <td>87%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td> <td>--</td> <td>33%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>40%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>--</td> <td>55%</td> <td>48%</td> <td>48%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	67%	81%	88%	75%	87%	90%	学生による授業評価4以上	--	33%	100%	100%	40%	33%	個人業績評価(授業活動)B以上	--	55%	48%	48%	34%	33%	A	学生の成績が74.7%(H21)から86.8%(H22)と上昇してきたが、今年度(H23)はさらに90.1%と大幅に上昇し、臨床系教育システムの改編が数字として表れてきた。		中期 4
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
学生の成績良以上	67%	81%	88%	75%	87%	90%																															
学生による授業評価4以上	--	33%	100%	100%	40%	33%																															
個人業績評価(授業活動)B以上	--	55%	48%	48%	34%	33%																															

中期計画		平成23年度計画	ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号															
項目	実施事項		中期	年度		中期 変更	年度		中期 年度 理由	中期	年度													
1.	5	<p>【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】</p> <p>①各科目の到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、厳格な成績評価を行う。 ②科目間で整合性のある成績評価方法を検討する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績:良以上60%以上 ・国家試験合格率:全国10位以内</p>	5-1	<p>【平成23年度計画】</p> <p>○シラバスに明確な評価基準および到達目標を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかどうか検証する。 ・継続したFDワークショップを行い、教員全員出席のもと教育意識の向上を図る。 ・学生に歯科医療人になるための行動計画を立てさせる。 ・成績表の保護者への送付と保護者説明会を継続する。</p> <p>○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○FDワークショップでシラバスの記載について、教員全員の意識の向上を図り、今年度は教務部会で全ての授業科目のシラバスを検証した。その結果、歯科医師育成という視点で極端に逸脱した授業内容を変更することができた。 ○学生に対しては、行動計画を出させ、年次毎にファイルするように指導した。 ○保護者説明会を北九州で開催し、57名の学生を対象に保護者を加えた形で面談した。 ○目標実績 ・学生の成績 良以上 75.2%</p>	A	<p>学生の良以上の成績獲得率が達成目標値をはるかに上回り、75%を超えるようになった。保護者説明会で、保護者が学生の成績を知り、三者面談の中で改善策を見出すことができるようになった。</p>			5													
				1	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>・医療系大学(医学・歯学)におけるモデル・コア・カリキュラムに準じたシラバス作りを行い、各教科の評価をシラバスに表示した。(H18) ・オリエンテーション等で成績評価について学生に周知し、厳正な評価を行った。(H18-H23) ・カリキュラム改訂が進む中で、休学あるいは留年した学生に対しても、理解できるような対応を行った。(H19-23) ・シラバスに評価基準及び到達目標を明示した。さらに、シラバスにモデル・コア・カリキュラムに準じた教育で習得できる範囲を明示したことで、個々の科目と歯学モデル・コア・カリキュラムの対応を分かり易くした。さらに学年主任と副任を各学年に配置し、学生の修学状況を把握する体制を構築した。(H21-23) ・FDワークショップに全教員が参加し、活発な意見交換を行った。(H21-23) ・2~3年次の「歯科医師入門学」で学生に行動計画表を提出させた。(H21-23) ・1~6年次生全学生及び保護者に成績表を送付した。その中で精神的に不安定な学生及び成績不振学生の保護者に対しては、北九州で保護者説明会を開催した。(H23) ※国家試験合格率の実績については教育の1-6に記載</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>73%</td> <td>72%</td> <td>73%</td> <td>70%</td> <td>76%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	73%	72%	73%	70%	76%	75%	A	<p>学生の良以上の成績獲得率が達成目標値をはるかに上回り、75%を超えるようになった。H21年度から始めた保護者説明会で、保護者が学生の成績を知り、三者面談の中で改善策を見出すことができるようになった。</p>		中期	5
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																		
学生の成績良以上	73%	72%	73%	70%	76%	75%																		
1.	6	<p>【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①全国の歯学部で行われている共用試験Objective Structured Clinical Examination (OSCE)と Computer Based testing (CBT)を成績評価の対象とする。(歯学科のみ) ②国家試験の合格率を上げるため、入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、入試、教育方法、成績評価基準などの見直しにつなげるシステムを作り、常に検証していく。(共用試験は歯学科のみ)</p> <p>○達成目標 ・教育方法等の見直しにつなげるシステムの構築:H19までに構築し、常に改善していく。 ・国家試験合格率:全国10位以内(歯学科) ・共用試験の平均成績:全国平均以上 ・国家試験:全員合格(口腔保健学)</p>	6-1	<p>【共用試験】</p> <p>○共用試験結果を解析し、データを開示して、成績不振科目を中心に改善を進める。 ・学生の成績データを解析し、弱科目を克服するために、教務部会を軸に組織対応する。 ○数値目標 平均点 70%以上</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○過去の共用試験CBTの結果と歯科医師国家試験合格の相関が分かるようになり、教務部会を中心とした学生指導で客観的な数値を提示することが可能となった。 ○CBTのデータから、モデル・コア・カリキュラムのうち、どの科目が不得意かが明確になるので、それに対して補講等の措置を取った。 ○目標実績 ・平均点 目標 70%以上 今期実績 74.04%(CBT得点率)</p>	A	<p>データ分析が進み、CBT得点率70%以上を目指すように指導してきたところ、今年度は全国平均(72.9%)を上回る74.04%という高い得点率を示した。</p>			6													
		<p>○達成目標 ・教育方法等の見直しにつなげるシステムの構築:H19までに構築し、常に改善していく。 ・国家試験合格率:全国10位以内(歯学科) ・共用試験の平均成績:全国平均以上 ・国家試験:全員合格(口腔保健学)</p>	6-2	<p>【教育効果の検証】</p> <p>○構築した成績管理システムの精度を向上させ、以下の目標達成を目指す。 ・学生の成績「良」以上が60%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・共用試験全員合格</p> <p>○数値目標 ・個人業績評価 自己評価 B以上 80%以上</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○構築した成績管理システムの精度向上に努めた。 ・学生の成績「良」以上が75.2% ・学生による授業評価「4」以上が49.0% ・共用試験全員合格</p> <p>○数値目標 ・個人業績評価 B以上 31.4%</p>	B	<p>成績管理システムを活用し、学生の修学指導に努めたところ、好成績を修めた。</p>			7													
			6-3	<p>【国家試験の合格率アップ】</p> <p>○国家試験の結果を解析し、教育カリキュラムを改編する。 ・第104回までの歯科医師国家試験(平成23年実施)で不合格となった者および第105回歯科医師国家試験(平成24年)受験予定者の国家試験対策に、教員がチューターとして関わり不得意科目克服に向けて個別的指導を行う。 ・事務局による学務管理システムを強化することで、不合格者の成績不振科目を分析する。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、今後の教育方針の参考とする。 ・国家試験合格率全国第10位以内を目指す。</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○6年次生10名につき1名の教員が付き、不得意科目克服のために補講等の指導を行った。 ○既卒不合格者16名のうち4名が本学で学習し、全員合格した。 ○国家試験終了後、直ちに概ね全員(回収率98.9%)の解答分析を行った。 ○歯科材料系科目の成績が弱点であることがわかった。 ○今年度の国家試験結果 新卒者:80.7%(全国18位) 既卒者:28.6%(全国26位) 総合:73.5%(全国18位)</p>	C	<p>国家試験の結果がH23年度計画の目標値を下回った</p>	Na9「資格試験合格率、免許の取得」		8													

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																																																																
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 年度 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																														
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用試験(CBT,OSCE)を臨床実習前に合格すべき要件とし、教授会で合格基準をCBT回答率60%、OSCE得点率60%に設定した。(H18) 学生の成績評価にGPAシステムを導入し、年度毎に学生及び保護者に「成績証明書」を開示し、成績不振者には個別対応した。(H19-H21) 成績不振者等を対象に保護者個別説明会を東京及び北九州で開催した。(H20-H22) 入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析したデータを保護者に示した。 共用試験(CBT, OSCE)のデータを学生に返却し、弱点を明示して、不得意科目を克服できるようにし、修学意欲を向上させた。さらに、担当教員に対しても担当科目の平均点を明示し、全国平均点と比較検討させ、教育効果という視点でシラバスの改善を求めた。(H21-23) 教務部会で共用試験データを分析し、FDワークショップで本学の教育における弱点について意見交換し、統合型に向けての教育連携の必要性を示した。(H21-23) 講義に、臨床症例画像を多く取り入れて治療方法などがわかり易い授業を行った。(H21-23) 6年次生および既卒不合格者における国家試験対策を充実させた。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>-</td> <td>72%</td> <td>73%</td> <td>70%</td> <td>76%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>学生の授業評価4以上</td> <td>-</td> <td>42%</td> <td>34%</td> <td>32%</td> <td>26%</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>-</td> <td>55%</td> <td>48%</td> <td>48%</td> <td>34%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>共用試験CBT平均回答率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(九州歯科大学)</td> <td>83%</td> <td>80%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>(全国29大学平均)</td> <td>78%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>OSCE</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>79%</td> <td>82%</td> <td>87%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>歯科医師国家試験合格率全国順位</td> <td>6位</td> <td>11位</td> <td>19位</td> <td>10位</td> <td>4位</td> <td>18位</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	-	72%	73%	70%	76%	75%	学生の授業評価4以上	-	42%	34%	32%	26%	48%	個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	31%	共用試験CBT平均回答率							(九州歯科大学)	83%	80%	76%	76%	76%	74%	(全国29大学平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%	OSCE	76%	76%	79%	82%	87%	85%	歯科医師国家試験合格率全国順位	6位	11位	19位	10位	4位	18位	B		No.9「資格試験合格率、免許の取得」	中期	6
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																			
学生の成績良以上	-	72%	73%	70%	76%	75%																																																																			
学生の授業評価4以上	-	42%	34%	32%	26%	48%																																																																			
個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	31%																																																																			
共用試験CBT平均回答率																																																																									
(九州歯科大学)	83%	80%	76%	76%	76%	74%																																																																			
(全国29大学平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%																																																																			
OSCE	76%	76%	79%	82%	87%	85%																																																																			
歯科医師国家試験合格率全国順位	6位	11位	19位	10位	4位	18位																																																																			
2 適性のある優秀な人材の確保・育成 歯科医師及び歯科衛生士としての適性を有する優秀な人材を確保し、育成する。 ・アドミッションポリシーを具体的にかつ明確にして学生募集を行う。 ・特待生制度を導入して優秀な学生を確保する。	1 【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 ①アドミッションポリシーを明確にしてAO入試や特待生入試など優秀な学生を確保するための入試を導入する。 ○達成目標 ・特待生入試: 辞退率0% ・推薦入試 : 受験倍率2.5倍 辞退率0% ・一般入試 : 受験倍率10倍 辞退率3% : センターランク 83%以上(前期・後期平均)	1-1 【平成23年度計画】 【アドミッションポリシーの周知度】 ○アドミッションポリシーの周知度を、HPや高校訪問などで向上させる。 ・(歯学科) AO入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(歯学科) 一般入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) 一般入試: 志願倍率 3.0倍 受験倍率 2.5倍 辞退率 0% ・センターランク 83%以上(歯学科) ・訪問高校に対して周知度をアンケート調査する。	1		<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高校訪問については、時期と有効性を検証して訪問先を決定した。 ○周知度はほぼ100%であった。 ○目標実績(歯学科) ・AO入試: 志願倍率 4.1倍 受験倍率 4.1倍 辞退率 0% ・一般入試: 志願倍率 5.9倍 受験倍率 5.3倍 辞退率 6% ・センターランク 75% ・歯学科一般入試の志願倍率 5.9倍の高さは全国29大学中第3位であった。(口腔保健学科) ・AO入試: 志願倍率 1.3倍 受験倍率 1.3倍 辞退率 0% ・一般入試: 志願倍率 3.4倍 受験倍率 3.0倍 辞退率 14% ・センターランク 61% 	A+		国立平均志願倍率(歯学部) 4.18倍に対し、本学は29大学中3位の高倍率を示したためA+評価とした	No.1「入学者選抜試験」	9																																																															
		1-2 【AO入試の実施】 ○平成20年度からのAO入試の経験をふまえ、更に改善した運営を円滑に実施する体制を整備する。 ・AO入試で合格した在学生のデータを学教務システムに登録し、今後の進路調査を行い、歯科医師として適性を検証する ・口腔保健学科のAO入試について、検証する。	2		<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○AO入試で過去2年間に合格した学生の入学後の成績をGPで比較したところ、一般入試とAO入試との間に大きな差は認められなかった。(歯学科、口腔保健学科同様) (注)口腔保健学科については、過去2年 ○過去のAO入試で定員枠に達しなかった理由を分析し、高校訪問先を変更・追加するなどして周知度を高めたと、AO入試合格者は20名(定員どおり)となった。 ○口腔保健学科のAO入試を実施した。 	A		入学後の成績分析の結果、AO入試を志願する受験生の基礎学力が本学が求めるレベルに達していることがわかり、AO入試(歯学科・口腔保健学科)で適正な実施を行うことができた。	No.1「入学者選抜試験」	10																																																															

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																																											
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																									
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーをホームページ等で明示した。(H18) ・高校訪問、予備校訪問あるいは高校での出前講義等を充実させ、本学のアドミッションポリシーを積極的に発信した(H18-23) ・H21年度入試にAO入試の導入を決め、H20年度に実施運営した(H20) ・アドミッションポリシーに従い、厳正なAO入試(H21、11月実施)を行い、10名の合格者を得た。募集定員は17名であったが適正な入試合否判定を行い、求める学生に合致した学生を選抜した。(H21) ・AO入試による入学者の学年成績について学教務システムを用いてデータの収集を行った。(H21-H23) ・AO入試に関連したFDを開始し、教員へアドミッションポリシーの周知徹底を図った。(H21) ・H21年度AO入試も含めて、入試方法別に成績をフォローする学教務システムを構築した。(H21) ・FDでAO入試をテーマとして取り上げ、教員の意識を向上させ、アドミッションポリシーに沿った形で、AO入試の面接と集団討論の採点を行った。(H21) ・口腔保健学科についても、AO入試を実施した。(H22-H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般入試の受験倍率</td> <td>5.3倍</td> <td>5.4倍</td> <td>3.0倍</td> <td>3.6倍</td> <td>4.2倍</td> <td>5.3倍</td> </tr> <tr> <td>同評退率</td> <td>9.6%</td> <td>3.6%</td> <td>7.7%</td> <td>10.6%</td> <td>7.7%</td> <td>6.4%</td> </tr> <tr> <td>推薦入試の受験倍率</td> <td>2.4倍</td> <td>2.4倍</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>AO入試の受験倍率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4.5倍</td> <td>5.0倍</td> <td>3.6倍</td> <td>4.1倍</td> </tr> <tr> <td>センターランク</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>83</td> <td>83</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	一般入試の受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍	同評退率	9.6%	3.6%	7.7%	10.6%	7.7%	6.4%	推薦入試の受験倍率	2.4倍	2.4倍	-	-	-	-	AO入試の受験倍率	-	-	4.5倍	5.0倍	3.6倍	4.1倍	センターランク	85	81	83	83	75	75	B	入学後の成績分析の結果、AO入試を志願する受験生の基礎学力が本学が求めるレベルに達していることがわかり、AO入試(歯学科・口腔保健学科)で適正な実施を行うことができた。	No.1「入学者 選抜試験」	中期 7	
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																														
一般入試の受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍																																														
同評退率	9.6%	3.6%	7.7%	10.6%	7.7%	6.4%																																														
推薦入試の受験倍率	2.4倍	2.4倍	-	-	-	-																																														
AO入試の受験倍率	-	-	4.5倍	5.0倍	3.6倍	4.1倍																																														
センターランク	85	81	83	83	75	75																																														
2	2【在校生対象の特待生制度等の導入】 ①優秀な学生を確保するために在校生を対象とした特待生制度を導入する。 ②ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を導入する。 ③現在の奨学金制度等を充実させ、学生の経済的支援を図る。 ○達成目標 ・特待生制度導入の成果測定(概ね制度導入後3年目から実施) ・学生の平均成績(各学年ごと)、国家試験合格率 ・在学生の平均成績:良以上60% ・国家試験合格率:全国10位以内	2-1	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○TA、RA活用率が76.8%となり、この制度が大学院生に定着してきた。 ○大学院充足率は71.7%にとどまった。 	B	大学院生にTA制度が定着し、キャリアパスを積むなかで、収入を得るシステムを確立することができたが、大学院の充足率が目標値をやや下回ったためB評価とした。		11																																												
		2-2	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明し、学生が奨学金を利用しやすい環境作りを行った。例年どおり、学生への周知徹底を図った。 ○福岡県が追加承認した予算枠外の経費を活用し、授業料減免措置で納付困難な学生への援助を行った。 ○今年度は授業料減免措置を図り、学生の修学環境が向上した。 	A	今年度は震災被災学生への対応も含め授業料減免措置の枠を拡大し、対象者が37人(H22)から54人(H23)に増加した。	No.13「奨学金 受給」	12																																												
			1	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの在校生に奨学金が貸与されるように、永松奨学会(本学の学生・大学院生のための奨学金制度)と協議し、H20年度の貸与学生数が3名分増加された。(H18-23) ・優秀な大学生確保の一貫として、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)制度を立ち上げて実施運営した。(H18-23) ・TAまたはRA制度を75%の大学院生が活用し、次世代を担う教育者・研究者としての素養を培った。(H21-23) ・教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、学生に永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明することにより、奨学金を利用しやすい環境作りを行った。(H21-23) <p>※国家試験合格率の実績については教育の1-6に記載 ※特待生制度の導入については、より効果のある制度構築のため、導入を保留した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院充足率</td> <td>58%</td> <td>64%</td> <td>70%</td> <td>70%</td> <td>79.2%</td> <td>71.7%</td> </tr> <tr> <td>TA及びRAの延べ従事実績</td> <td>1803時間</td> <td>1434時間</td> <td>1791時間</td> <td>1719時間</td> <td>1765時間</td> <td>2258時間</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	大学院充足率	58%	64%	70%	70%	79.2%	71.7%	TA及びRAの延べ従事実績	1803時間	1434時間	1791時間	1719時間	1765時間	2258時間	B	奨学金制度の充実やTA/RA制度の活用が図られた一方で、大学院充足率は伸び悩んでおり、総合的にはB評価と判断した。	No.13「奨学金 受給」	中期 8																							
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																														
大学院充足率	58%	64%	70%	70%	79.2%	71.7%																																														
TA及びRAの延べ従事実績	1803時間	1434時間	1791時間	1719時間	1765時間	2258時間																																														

項目	実施事項	平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																																																																																																																
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期	年度																																																																																																															
2	3【広報活動の充実】 ①オープンキャンパスの実施内容を改善する。 ②出前講義や高校訪問を実施する。 ③各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に積極的に参加する。 ○達成目標 ・高校訪問数:延べ110校 ・入試説明会参加数:10 ・出前講義数:延べ2校 ・オープンキャンパス参加者数:210 ・高校訪問アンケート ・良好評価60%以上 ・入試説明会参加者アンケート ・良好評価60%以上 ・出前講義参加者アンケート ・良好評価60%以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート ・評価4以上50% 歯学科 ・志願者数(志願倍率) ・960人(10倍) ・受験者数(受験倍率) ・760人(8倍) 口腔保健学科 ・志願者数(志願倍率) ・75人(3.0倍) ・受験者数(受験倍率) ・60人(2.4倍)	3-1【平成23年度計画】 【オープンキャンパス】 ○オープンキャンパスの内容等を工夫し充実させる。 ・ポスター掲示などとして、事業広報を積極的に行う。 ・オープンキャンパス参加者数 220名以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート 評価「4」以上 80%以上 3-2【平成23年度計画】 【広報活動・出前講座・高校訪問・入試説明会】 ○さまざまなメディアとリわけHPを利用して広報活動を充実させる。 ・各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に参加する。 ・受験生や高校関係者に対する広報活動を充実させる。 ・大学の教育・研究・社会貢献のトピックスをメディアを用いて発信する。 ・出前講座・高校訪問・入試説明会を積極的に展開し、充実させる。 ・受験者の少ない福岡市内の高校を重点に訪問するなどして志願者増へ働きかけるとともに、引き続き受験者の傾向を分析する。 ○数値目標 ・出前講座 アンケート良好評価 60%以上 ・高校訪問 県内70校 県外50校 アンケート良好評価 80%以上 ・入試説明会 参加数 10回以上 アンケート良好評価 60%以上 ・歯学科 一般入試 志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 ・歯学科 AO入試 志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 ・口腔保健学科 一般入試 志願倍率 3.0倍 受験倍率 2.5倍	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○ホームページや進学説明会等を通じて広報活動に努めた結果、昨年比3割程度参加者が増加した。模擬講義、診療体験などのイベントも総じて高評価が得られた。 ○目標達成 ・オープンキャンパス参加者数 337名 ・参加者アンケートで5段階評価の「4」以上 95%	A	高校生の目線に立った模擬講義と実習体験コーナーを設置したオープンキャンパスを運営し、参加者も増え極めて高い評価を得ることができた。	No.7「オープンキャンパス」	13																																																																																																																
			1	1	【平成23年度の実施状況】 ○高校訪問、模擬講義を実施した高校や入試説明会に参加した受験生のデータから受験生の動向を分析し、アンケート調査結果を踏まえ、重点的かつ効率的な広報活動を展開した。 ○口腔保健学科は、より周知度を高めるために、6月から広報活動を開始した。 ○受験情報誌に学長が寄稿し、本学をアピールした。 ○模擬講義先:修成館高校(臨床系)、下関西高校(臨床系)、門司学園高校(基礎系)、講義終了後のアンケート調査結果「満足」が95% ○メディアが主催する大学説明会に積極的に参加した。 ○目標実績 ・高校(含予備校)訪問 県内58校 県外70校(アンケートによる本学の歯学部教育方針に対する理解度は、93%) ※これまでのデータで、本学を受験する学生の多い高校・予備校を重点的に訪問した。 ・入試説明会参加回数 22回 一般入試 歯学科 口腔保健学科 志願者(倍率) 458名(5.9倍) 74名(3.4倍) 受験者数(倍率) 410名(5.3倍) 65名(3.0倍) AO入試 歯学科 口腔保健学科 志願者(倍率) 70名(4.1倍) 4名(1.3倍) 受験者数(倍率) 70名(4.1倍) 4名(1.3倍)	A	歯学科及び口腔保健学科ともに充実した広報活動を展開し、多くの受験生を得ることができた。特に、口腔ケアについて、メディアを用いて発信し、高齢者の健康増進について情報提供した。	No.4「高校訪問」 No.5「入試説明会」 No.6「出前講義」	14																																																																																																																
			1	1	【中期目標期間の実施状況】 ・法人化後、オープンキャンパスを企画立案し、本館新築時から本格的な活動を行った。H23年度の模擬講義には180名を超える参加者を得て実施し、アンケート調査でも高い評価を得ることができた。(H18-H23) ・法人化前は各メディアが主催する大学説明会に参加するだけであったが、法人化後は、教職員が九州・沖縄・中国地区の高校を訪問し、九州歯科大学の歯学教育をアピールした。(H18-H23) ・高校や予備校における出前講義を行い、公立の医療系大学としての存在感をアピールした。(H18-H23) ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス参加者</td> <td>99名</td> <td>154名</td> <td>204名</td> <td>192名</td> <td>264名</td> <td>337名</td> </tr> <tr> <td>参加者アンケート「4」以上</td> <td>-</td> <td>96%</td> <td>90%</td> <td>90%</td> <td>92%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>出前講義数(予備校含む)</td> <td>3校</td> <td>2校</td> <td>3校</td> <td>1校</td> <td>3校</td> <td>3校</td> </tr> <tr> <td>高校訪問(県内)</td> <td>35校</td> <td>35校</td> <td>48校</td> <td>49校</td> <td>52校</td> <td>49校</td> </tr> <tr> <td>高校訪問(県外)</td> <td>14校</td> <td>16校</td> <td>33校</td> <td>42校</td> <td>55校</td> <td>58校</td> </tr> <tr> <td>高校訪問(計)</td> <td>49校</td> <td>51校</td> <td>81校</td> <td>91校</td> <td>107校</td> <td>107校</td> </tr> <tr> <td>高校訪問良好結果</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99%</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>予備校訪問</td> <td>4校</td> <td>17校</td> <td>14校</td> <td>14校</td> <td>14校</td> <td>21校</td> </tr> <tr> <td>入試説明会</td> <td>5回</td> <td>3回</td> <td>9回</td> <td>11回</td> <td>18回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>(歯学科(一般入試))</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>志願者数(倍率)</td> <td>7.3倍</td> <td>6.9倍</td> <td>3.3倍</td> <td>4.4倍</td> <td>4.7倍</td> <td>5.9倍</td> </tr> <tr> <td>受験者数(倍率)</td> <td>5.8倍</td> <td>5.4倍</td> <td>3.0倍</td> <td>3.9倍</td> <td>4.2倍</td> <td>5.3倍</td> </tr> <tr> <td>(口腔保健学科(一般入試))</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>志願者数(倍率)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.9倍</td> <td>2.7倍</td> <td>3.4倍</td> </tr> <tr> <td>受験者数(倍率)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.8倍</td> <td>2.4倍</td> <td>3.0倍</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	オープンキャンパス参加者	99名	154名	204名	192名	264名	337名	参加者アンケート「4」以上	-	96%	90%	90%	92%	95%	出前講義数(予備校含む)	3校	2校	3校	1校	3校	3校	高校訪問(県内)	35校	35校	48校	49校	52校	49校	高校訪問(県外)	14校	16校	33校	42校	55校	58校	高校訪問(計)	49校	51校	81校	91校	107校	107校	高校訪問良好結果	100%	100%	100%	100%	99%	93%	予備校訪問	4校	17校	14校	14校	14校	21校	入試説明会	5回	3回	9回	11回	18回	22回	(歯学科(一般入試))							志願者数(倍率)	7.3倍	6.9倍	3.3倍	4.4倍	4.7倍	5.9倍	受験者数(倍率)	5.8倍	5.4倍	3.0倍	3.9倍	4.2倍	5.3倍	(口腔保健学科(一般入試))							志願者数(倍率)				1.9倍	2.7倍	3.4倍	受験者数(倍率)				1.8倍	2.4倍	3.0倍	A	歯学科及び口腔保健学科ともに充実した広報活動を展開し、多くの受験生を得ることができた。とくに、中期計画最終年度であるH23年度の歯学科の志願倍率は、全国の29大学歯学部中3位の高倍率であったことから目標は十分に達成されたと考えA評価とした。	No.4「高校訪問」 No.5「入試説明会」 No.7「オープンキャンパス」	中期 9
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																																																																			
オープンキャンパス参加者	99名	154名	204名	192名	264名	337名																																																																																																																			
参加者アンケート「4」以上	-	96%	90%	90%	92%	95%																																																																																																																			
出前講義数(予備校含む)	3校	2校	3校	1校	3校	3校																																																																																																																			
高校訪問(県内)	35校	35校	48校	49校	52校	49校																																																																																																																			
高校訪問(県外)	14校	16校	33校	42校	55校	58校																																																																																																																			
高校訪問(計)	49校	51校	81校	91校	107校	107校																																																																																																																			
高校訪問良好結果	100%	100%	100%	100%	99%	93%																																																																																																																			
予備校訪問	4校	17校	14校	14校	14校	21校																																																																																																																			
入試説明会	5回	3回	9回	11回	18回	22回																																																																																																																			
(歯学科(一般入試))																																																																																																																									
志願者数(倍率)	7.3倍	6.9倍	3.3倍	4.4倍	4.7倍	5.9倍																																																																																																																			
受験者数(倍率)	5.8倍	5.4倍	3.0倍	3.9倍	4.2倍	5.3倍																																																																																																																			
(口腔保健学科(一般入試))																																																																																																																									
志願者数(倍率)				1.9倍	2.7倍	3.4倍																																																																																																																			
受験者数(倍率)				1.8倍	2.4倍	3.0倍																																																																																																																			

中期計画		ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	平成23年度計画	中期 年度		中期 ↓ 年度 変更	中期 ↓ 年度 変更		中期 ↓ 年度 変更	中期 ↓ 年度 変更
3 教育の質の改善 ・教育実施体制や教育方法の改善のために評価、任期制導入、教員教育(FD)を推進する。	1 【教育活動の評価の実施及び任期制の導入】 ①学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させる。 ②個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映する。 ③任期制を導入する。	1-1 【平成23年度計画】 【学生・同僚による授業評価の導入】 ○教員の教育能力の検証のために、「学生による授業評価」、「同僚による授業評価」を導入した平成21年度以降のデータを分析し、教員にフィードバックする。 ・「学生による授業評価」および「同僚による授業評価」を教育にフィードバックする	1	【平成23年度の実施状況】 ○学部長面談時に、平成22年度でデータと比較検討し、次期のシラバスへの反映あるいは具体的改善策の提出などを求めた。 ○教員に授業評価データを手渡し、低い評価の教員に対して、分野長あるいは講座長が教育方法などについて指導した。	A	学生及び同僚による授業評価をフィードバックするシステムを継続。 その結果、FDワークショップにおけるアンケート調査で、教員から授業評価システムを前向きにとらえる意見が出されるようになった。	No.10「学生による授業評価」	15	
		1-2 【平成23年度計画】 【個人業績評価の研究費と給与への反映】 ○過去5年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与と反映方式に確立する。 ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。 ・前年度実績を評価した教員に対して研究費を反映させる。	1	【平成23年度の実施状況】 ○平成20年度給与と反映から導入した支給方式を継続し、評価点数に応じ対象教員58名(45%)に対し総額10,185千円の給与と反映を行った。 ○平成21年度給与と反映から導入した「法人・大学に特に貢献した活動を行った教員に支給する特別賞」について、23年度は合計2名に授与した。 ○前年度の研究成果報告者を検証し、優れた成果を評価された教員22名について23年度の個人研究費に反映させた。	A	本学独自の給与と反映方式を継続するとともに、特別賞については年度ごとに支給対象を厳選し給与に反映した。また、優れた研究活動に対しては研究費配分の配慮も行っており、計画を十分に達成している。		16	
		1-3 【平成23年度計画】 【任期制の充実】 ○「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の年次再任手続きを開始する。	1	【平成23年度の実施状況】 ○副理事長を委員長とする再任審査委員会において、規則に定められた手続に基づき再任申請を行った7名の教員について審査を行い、委員の再任を決定し理事長に報告した。 ○該当教員に通知し、再任を行った。	B	再任審査委員会において23年度末に任期を迎える教員の再任審査が完了しており、計画どおり進捗している。		17	
			1	【中期目標期間の実施状況】 ・「学生による授業評価」の点数を個人業績評価に反映させた。(H18-23) ・「同僚による授業評価」に関しては、H18年度は部局長による評価、H19年度は講座長による評価という異なる方法を行い、H20年度以降は講座長による評価を行った。(H18-23) ・個人業績評価の結果を研究費配分や給与へ反映させる取組を行った。(H20-23) ・任期制導入3年目に、理事会で「任期制教員再任基準」を決定し、教員に全学説明会で周知した。(H20-23) ・「同僚による授業評価」を全ての科目に本格導入して、「学生による授業評価」とともに個人業績評価に反映させた。この数値をH21年度の学部長面談時に、全教員に示し、改善方法について意見交換を行った。(H21-23) ・「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」の結果を各教員に示し、次期のシラバスに反映させた。(H21-23) ・評価結果を給与配分に反映させるシステム「特別賞」(評価点数の総合平均点以上の者で、前年度に比べ評価点が向上した教員に上乗せ支給する。)をH20年度から導入したことに加え、法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える「特別賞」をH21年度に新設した。	B ↓ A	中期計画の目標をほぼ達成し、学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させた。さらに個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映を完全に実施できた。さらに任期制の導入も実施されたためA評価とした。	No.10「学生による授業評価」	中期 10	

項目	実施事項	平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			データ番号	通し番号								
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度							
3	2【FDの推進】 ①教員の資質の向上を目指して企画・内容を精選し、効率的なFDを実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価 :4以上 60%以上 ・個人業績評価(授業評価) :B以上 80%以上 ・研修会等FD活動への教員参加率 :100% ・他の教員も使用できる教材、学習指導法の開発 :実習を中心に1年間5件以上、H23年度までに科目の80%に導入	2-1【平成23年度計画】 ○学部長のもとに設置されたFD委員会で、教育の改善に向けてFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・教育に関する適切なテーマを設定する。 ○数値目標 ・FD活動の教員の参加率 100%	2		【平成23年度の実施状況】 ○教育改善につながるテーマを中心に11回開催し、その内1回は、ワークショップを祝日に開催した。 ○平均93%の参加率で、11回の内2回は参加率100%であった。	B	年度計画を全て達成することができた。	No.11「FD」		18								
		【中期目標期間の実施状況】 ・学部長を中心としたFD部会のもと、学生の教育に関する諸問題に力点をのいたテーマを設定し、FDを毎年実施してきており、H20年度以降は開催頻度を年10回以上に拡大した。 ・H23年度は学生に関わる諸問題を中心に1回のFD活動を行い、そのうち2回の参加率は100%に達した。10回平均しても93%の参加率が得られた。また、休日に1回のFDワークショップを開催し、教育手法についての情報を提供し、教育へのフィードバックを図った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="891 662 1489 699"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動参加率</td> <td>-</td> <td>69.8%</td> <td>95.4%</td> <td>98.0%</td> <td>97.9%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> ※「学生による授業評価」、「個人業績評価」の目標実績は、教育の1-1～1-4に記載									H18	H19	H20	H21	H22	H23	FD活動参加率	-
	H18	H19	H20	H21	H22	H23												
FD活動参加率	-	69.8%	95.4%	98.0%	97.9%	92.9%												
4 学生への支援 ・学生の学習に対する支援活動に取り組む。 ・卒業生の就職支援を充実させる。 ・学生の福利厚生を充実させる。	1【学習相談・助言・支援の組織的対応】 ①学生にITアカウントを与え、学習についての相談や教育・教務関連情報の連絡に使用する。	1-1【平成23年度計画】 ○学内ネットによる学習相談や教育・教務関連情報連絡システムを普及させる。 ・学内ネットを活用した新たな学生福利厚生活動を開始する。 ・学生が修学できる「自習室」の利用日を土曜日祭日に拡大し、利用時間を22時までとする取組を継続する。	1		【平成23年度の実施状況】 ○学生サポート体制として、「なんでも相談室」活動を充実させた。(学生相談件数は30件程度) ○「学生意見箱」(学生意見2件)で出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。 ○学内ネットによる学内情報システムの周知を図った。 ○601講義室を6年生専用の自習室とし、年末年始を除く、土曜、日曜および祝日の9時から22時まで開放し、17時から18時にかけて教員が解説した。 ○健康管理室活動の結果、定期健康診断受診率が98.4%に上昇した。	A	自習室を学生に開放し、さらに自習する学生の修学をサポートする教員配置を開始したことなどをふまえA評価とした。		19									
		【中期目標期間の実施状況】 ・学生にITアカウントを与え、学内ネットを活用した学生支援活動を開始し、その運用を年度毎に改善してきた。H21年度は、授業プリントを配付するシステムの設計を行った。(H18-23) ・カウンセリングや健康管理室での活動を充実させ、学生の身体面・精神面のサポート体制を強化してきた。H21年度は定期健康診断受診率向上など学生の健康意識が高まった。(H18-23) ・「学生意見箱」や「何でも相談室」を設置し、学生の意見を取り入れる制度を導入した。H21年度からは、出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。(H19-23) ・学生ポータルを活用した授業が3つ増加(3-6)した。(H21) ・図書館の利用については、休日の開館や利用時間の延長等により、学生の利便性の向上を図った。(H22-23) ・講義室の管理システムを改善し、放課後に学生の自習室として5室開放した。(H21-23)			A					中期計画の目標である学習相談・助言・支援の組織的対応が実施され、学生の満足度も向上したことからA評価とした。		中期 12						

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期 ↓ 年度	中期
4	2【就職先の開拓及び求人情報の提供など就職支援の充実】 ①卒業・研修後の就職支援体制(リクルートシステム)を確立する。 ②就職先の調査・開拓 ○達成目標 ・システム利用者の就職率:100% ・病院・施設等訪問数:30件以上	2-1【平成23年度計画】 ○就職支援体制を充実する。 ・口腔保健学科のリクルートシステムを構築する。 ○就職先の開拓及び求人情報の提供 ・病院・施設・企業等へ訪問し、求人情報の提供を得るとともに大学の学生を宣伝する。 年間30箇所以上 ・法人の役員等が中心となって、地元経済界の団体や近隣の医師会・歯科医師会に訪問し、PRする。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○学長を最高責任者とする就職支援会議と、口腔保健学科の教員と学生支援班で構成された就職支援検討会議を設置し、就職支援体制を整備した。 ○就職支援会議に基づき、訪問のための開拓リストと口腔保健学科のリーフレット、求人票の様式を作成した。 ○学生支援として、口腔保健学科生を対象にキャリアデザインセミナー(外部講師)を実施した。 ○学生支援として、就職支援室を設置し運用を開始した。 ○学長・学部長・病院長が、病院・施設・企業等への訪問を開始して、口腔保健学科の卒業生の存在をアピールした。	A	就職支援について、様々な取り組みを実施した。特に今年度、就職支援室を設置し学生の利用が始まり、開学2年で口腔保健学科学生がキャリアデザインを描ける環境が整ったことからA評価とした。	No.19「就職状況」	20	20
			1	1	【中期目標期間の実施状況】 ・法人化後、学内ネットを活用した求人情報検索システムの構築などにより、歯科医師募集情報が簡便に行えるように改善した。(H18-23) ・システム利用者の就職率 100%(臨床研修医) ・新たに設置した口腔保健学科に関する事項をホームページに加え、リニューアルした。(H21) ・学生支援として、「就職支援室」を新たに設置し運用を開始した。(H23) ・学長、学部長、病院長が企業・病院等を訪問し、口腔保健学科卒業生の特徴をアピールし、新たな就職先の開拓を行った。	B ↓ A	就職支援について、様々な取り組みを実施した。とくにハード面では、中期計画最終年度に本館6階に就職支援室の設置が完了し、学生の積極的な利用も始まったことからA評価とした。	No.19「就職状況」	中期 13	20
		ウェイト総計	中期 14	23年度 18			項目数計		中期 13	23年度 20

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- 1-1-1-1: 初年次から歯科医療人として活躍するという自覚を持たせるカリキュラムを検討する。
 1-2-1-1: 臨床教育システムの充実を重点目標と位置づけしており、臨床基礎実習をより実践的かつ有効なものにする。
 1-2-1-2: 平成23年度入試をより充実させ、歯科医師として適正な人材の確保を目指す。
 1-3-2-1: 教員の意識と教育手法の向上を重点目標とする。

教育に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

- ① …九州工業大学と歯学・工学を融合させた領域の教育を行う大学院連携を開始し、単位互換を実施している。

教育に関する特記事項(平成23年度)

- ① …九州工業大学と歯学・工学を融合させた領域の教育を行う大学院連携を継続し、単位互換を実施している。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 2 研究	<p>「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する」</p> <p>九州歯科大学は、大学としての研究方針に基づき、研究者の連携や産官連携を通じ、大学の教育と社会の発展に有用な研究を重点的に推進する。研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。</p>
--------------	---

項目	実施事項	平成23年度計画		ウェイト 中期 年度	計画の実施状況	自己評価		データ 番号	通し番号																											
		中期	年度			中期 ↓ 変更	年度		中期	年度																										
1 研究水準並びに研究成果の向上 地域社会への貢献ができる高い水準の研究を行うことを全学共通の重要課題と位置づけ、研究の活性化を図る。	<p>1【大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分】</p> <p>①大学の方針に基づいて、分野内あるいは枠を超えた複数分野の研究者の連携で研究を活性化させる。 ②現在の画一的な学内研究費予算配分を見直し、大学運営に貢献する研究成果に応じた配分を行うとともに、その研究費の評価システムを確立する。</p> <p>○達成目標 ・研究費に占める研究成果に応じて配分する研究費の割合 :30%以上</p>	1-1	<p>【平成23年度計画】</p> <p>○研究費配分の適正度を検証し、研究費の増額による研究成果の向上に生かす。 ・学長研究費を、若手教員の育成のための資金投入を継続する。 ・大学院における研究活動を促進するため、大学院生、研究生、専修生を対象とした研究費配分を継続する。 ・歯工学連携大学院に係る研究費を増額させる。</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○研究企画書に基づいた研究費配分時に、義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた。 ○学長研究費の割合は、総額研究費の32.6%となり、目標を達成した。そのうち若手研究者5名について、意欲を高めるため研究費を配分した。 ○各分野に所属する大学院生及び研究生・専修生数に応じた配分を行った。(大学院生86名→8, 600千円、研究生・専修生18名→1, 800千円) ○歯工学連携大学院に係る研究費については、学長研究費の他領域との配分の兼ね合いから、額の増額は行わなかった。</p>	A	<p>中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由</p> <p>大学として評価・検証を行い、若手研究者の育成に力を注ぐこととし、研究費を重点配分するといった組織的対応を行った。</p>			21																										
	<p>○達成目標 ・研究費に占める研究成果に応じて配分する研究費の割合 :30%以上</p>		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>・9講座26分野の教員(研究者)の配置は、学長のリーダーシップのもと組織的に対応してきた。(H18-23) ・学内研究費の画一的な配分を見直し、研究企画書に基づいて配分額を決定した。(H18-23) ・H19年度から研究実績報告書の提出を求め、研究費の費用対効果を検証するシステムを構築し実施運営した。(H19-23) ・H21年度は、研究企画書に基づいた研究費配分時に義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた。(H21-23) ・学長研究費の配分に関しては、九州歯科学会での発表、市民公開講座での講演等を義務付け、地域社会への情報発信に努めた。(H18-23) ・学長研究費の割合は33%となり、目標を上回って実施できた。そのうち若手研究者5名について、意欲を高めるために研究費を配分した。(H23) ・大学院生86名に10万円を配分し、さらに研究生2名、専修生16名に対して研究費を配分した。(H23)</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学長研究費が占める割合</td> <td>30%</td> <td>35%</td> <td>38%</td> <td>32%</td> <td>32.1%</td> <td>32.6%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学長研究費が占める割合	30%	35%	38%	32%	32.1%	32.6%	1	A	<p>学長のリーダーシップのもと、学部に配分した研究費や学長研究費が有効に活用され、研究業績が向上したことから、A評価とした。</p>		中期 14														
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																														
学長研究費が占める割合	30%	35%	38%	32%	32.1%	32.6%																														
1	<p>2【研究の事後評価・検証システムの構築・実施】</p> <p>研究活動の事後評価・検証システムを確立して、研究者の意識を高めるとともに、毎年、各研究者の研究活動を公表することにより情報公開を実施する。</p> <p>○達成目標 ・論文数(査読ありのもの、学術書掲載のもの) :70件(英文誌) ・学会発表(招待講演、シンポジスト招待に限る) :10件 ・特許・実用新案権件数 :2件</p>	2-1	<p>【平成23年度計画】</p> <p>○これまでの研究活動の評価・検証システムを実施し、研究費の配分の適正度をチェックする。 ・社会の発展と歯科技術を向上させるという意識のもとで研究活動を行う。 ・各研究者の研究活動を公表(全教員を対象とする)</p> <p>○数値目標 ・論文数 80件以上(外国雑誌) ・学会発表数 20件以上(国際学会) ・特許・実用新案権件数 2件以上</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○「歯科用インプラントを安全に埋入するための画像分析ソフトウェアの開発」など、社会貢献と歯科医学の向上につながる研究を展開した。 ○各研究者の成果をホームページで公表した。 ○数値目標 ・論文数 92件(英文) ・学会発表数 27件(国際学会) ・特許・実用新案権件数 3件</p>	A	<p>前年度同様目標数値を高く設定したが、すべての目標において上回る事ができた。</p>	No.21「論文等の実績」	22																											
			<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>・個人業績評価時に提出する附属書で、年度実績を点数化し、客観的な研究活動評価検証システムを構築し実施運営した。(H18-23) ・教員(研究者)の研究業績をホームページで公表した。(H19-23) ・研究実績評価において、社会への貢献と歯科医学を支える研究という視点を重視した。(H21-H23)</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文数(英文)</td> <td>77件</td> <td>65件</td> <td>75件</td> <td>81件</td> <td>90件</td> <td>92件</td> </tr> <tr> <td>学会発表数(国際学会)</td> <td>33件</td> <td>11件</td> <td>15件</td> <td>21件</td> <td>25件</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>特許出願</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	論文数(英文)	77件	65件	75件	81件	90件	92件	学会発表数(国際学会)	33件	11件	15件	21件	25件	27件	特許出願	4件	4件	4件	4件	3件	3件	1	A	<p>中期計画目標を達成し、論文数や学会発表数も中期計画期間を通じて毎年度増加したためA評価とした</p>	No.21「論文等の実績」	中期 15
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																														
論文数(英文)	77件	65件	75件	81件	90件	92件																														
学会発表数(国際学会)	33件	11件	15件	21件	25件	27件																														
特許出願	4件	4件	4件	4件	3件	3件																														

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																	
1	3	3-1			<p>【平成23年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部研究費の獲得に向け、事務局が募集等に関する情報発信に努めた。 ○歯工学連携を通じて、科研費3件、共同研究費3件を新規獲得することができた。 ○目標実績 <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費 65件 (131,987千円) ・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金 30件(うち、産学官連携分 10件) (53,911千円) ・外部資金合計95件 (185,898千円) 		A	No.20「研究」		23																																		
			2		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から外部資金募集情報を提供し、学内からの申請件数の増加を図った。更に、H21年度はホームページを利用して細やかな情報提供に努めた。(H18-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費(件数)</td> <td>50件</td> <td>52件</td> <td>58件</td> <td>65件</td> <td>68件</td> <td>65件</td> </tr> <tr> <td>科学研究費(金額)</td> <td>91,020千円</td> <td>95,460千円</td> <td>125,480千円</td> <td>102,001千円</td> <td>119,353千円</td> <td>131,987千円</td> </tr> <tr> <td>受託研究費・奨学寄付金等(件数)</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>26件</td> <td>23件</td> <td>29件</td> <td>30件</td> </tr> <tr> <td>受託研究費・奨学寄付金等(金額)</td> <td>29,743千円</td> <td>28,261千円</td> <td>37,589千円</td> <td>30,882千円</td> <td>49,756千円</td> <td>53,911千円</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	科学研究費(件数)	50件	52件	58件	65件	68件	65件	科学研究費(金額)	91,020千円	95,460千円	125,480千円	102,001千円	119,353千円	131,987千円	受託研究費・奨学寄付金等(件数)	20件	19件	26件	23件	29件	30件	受託研究費・奨学寄付金等(金額)	29,743千円	28,261千円	37,589千円	30,882千円	49,756千円	53,911千円		A	No.20「研究」	中期 16
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																						
科学研究費(件数)	50件	52件	58件	65件	68件	65件																																						
科学研究費(金額)	91,020千円	95,460千円	125,480千円	102,001千円	119,353千円	131,987千円																																						
受託研究費・奨学寄付金等(件数)	20件	19件	26件	23件	29件	30件																																						
受託研究費・奨学寄付金等(金額)	29,743千円	28,261千円	37,589千円	30,882千円	49,756千円	53,911千円																																						

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度												
1	4【産学官連携の推進】 歯学関連企業だけでなく、一般企業 ならびに学外諸機関との交流を深 め、歯学部の特長分野を活かした 連携を推進する。 ○達成目標 産学官連携件数:年2件以上、 H23年度までに10件	4-1【平成23年度計画】 ○他分野にも注目される研究を展開して、福岡県内 の産業に貢献する研究を展開する。 ・産学連携フェアへの積極的な参加 ・年間産学連携件数5件以上 ・寄附講座の開設をめざしてスポンサーとの交渉を 継続する。		1	【平成23年度の実施状況】 ○産学連携フェアへ研究成果を出展した。(テーマ:歯科用インプラントを安全に埋入するための画像分析ソフトウェア) ○年間産学連携件数10件 (新規:6件・継続:4件) ○寄附講座開設のための交渉を継続して実施した。	B	新規で産学連携件数6件を得る ことができ、目標を大きく上回っ た。	No.22「産学 官連携」		24													
				1	【中期目標期間の実施状況】 ・産学連携フェアへ研究成果を出展した。(H18-23) ・産学連携(共同研究、受託研究)に積極的に取り組んだ。(H18-23) ・寄附講座開設のための交渉を開始した。(H20) ・北九州4大学(九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学、九州歯科大学)間で、定期的に学長会議を開催し、産学 官連携の推進について協議した(H18-23) ・北九州産学連携フェアへの出展を通じて、地域企業に歯学研究をアピールした。H23は歯工学連携による研究成果を出展 した。(H18-H23) ・産学官連携が進み、G.U.I.(コンピュータ操作の対象が絵で表現されるシステム)による歯科ドック、口腔健康管理システム と設備管理システムと設備管理システムの開発、歯科用インプラントを安全に埋入するための画像分析ソフトウェア及び唾 液の分泌量と性状を調べることのできる機器を開発した。また、寄附講座開設可能な企業に関しては、歯周病診断キットを 開発する会社と交渉を継続した。(H21-23) ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産学連携件数</td> <td>4件</td> <td>9件</td> <td>6件</td> <td>7件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	産学連携件数	4件	9件	6件	7件	5件	6件	A	中期計画目標を達成して、さら には北九州4大学による歯工 連携の更なる進展が図られ、さま ざまな研究成果が得られたためA 評価とした。	No.22「産学 官連携」	中 期 17
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
産学連携件数	4件	9件	6件	7件	5件	6件																	
		ウェイト総計	中期 5	23年度 5				項目数計	中期 4	23年度 4													

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

2-1-3-1:平成23年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。

研究に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

研究に関する特記事項(平成23年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 3 社会貢献	「大学の保有する人材・知識・施設等を社会のために活用する」 大学が保有する人材と歯科保健医療に関する高度な技術や情報等を活用して、開業歯科医師や歯科衛生士等を対象としたリカレント教育、診療所への歯科保健医療情報の提供などの事業を実施し、積極的な社会貢献を果たす。
----------------	--

項目	実施事項	平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号								
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期	年度							
1 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 大学全体が一丸となって、地域社会へ貢献する大学を目指すとともに、国際貢献、特にアジアへ貢献する大学を目指す。	①e-learningシステムを活用したリカレント教育の充実 e-learningシステムを使用して歯科医師、歯科衛生士及び医療従事者を対象のリカレント教育を行う。 ○達成目標 ・利用者数:150人 ・利用者アンケート:内容に対する満足度 50%以上	1-1 【平成23年度計画】 ○「Q-shidaiゼミ」をリカレント教育教材として用い、良質なプログラムを発信する。 ・「Q-shidaiゼミ」によるデモプログラム数を増やし、利用者(一般の開業歯科医師、研修医)からのアンケートを集計する。 ・新規にコンテンツを4コース(10番組)を追加して合計30番組とし、デモプログラムを充実することでアクセス件数を増加させる。 4,000件目標 利用者数 200人 内容に対する満足度 60%以上 ・e-learningを含むリカレント教育を企画する。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○20番組のコンテンツを有する「Q-shidaiゼミ」を、リカレント教育教材として発信を行った。 ○数値目標 アクセス数 4,345件 利用者数 203名 ○厚生労働省科学研究「サービス事業希望者に対するe-learningによる就職支援プログラムの構築」で、歯科衛生士を含めた介護系職種に向けて、複数のコンテンツを開発した。	B	B		25								
		【中期目標期間の実施状況】 ・同窓会員に対して広報活動を実施した。(H18) ・大学ホームページに「Q-shidaiゼミ」を開設し、インターネットで「口腔と健康」及び「救急蘇生」に関する情報提供を開始した。情報処理室に嘱託職員を配置するなど体制を整えた。有償化に向けてアンケート調査を実施し、デモンストレーションバージョンが画像的にも内容的にも優れたものであるという評価を受けた。(H19) ・e-learningの広報「Q-shidaiゼミ」の満足度調査を行うためのアンケートページの作成を行った。(H21) ・「Q-shidaiゼミ」のコンテンツ数については、「口腔ケア」、「緊急蘇生」、「歯周病」、「インプラント」等徐々に番組を追加し、H23年度現在で合計20番組にまで拡充した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="918 869 1579 917"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>e-learning利用者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>182名</td> <td>203名</td> </tr> </tbody> </table>								H18	H19	H20	H21	H22	H23	e-learning利用者数	-
	H18	H19	H20	H21	H22	H23											
e-learning利用者数	-	-	-	-	182名	203名											
1.	2【歯科保健医療情報の提供】 ①ホームページによる歯科保健医療情報(診療科及び診療内容など)の提供を充実させる。 ②北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院として、診療所では対応困難な歯科医療、または診療情報を提供する。 ○達成目標 ・病診連携件数:年間3,200 毎年1%増を図る。	2-1 【平成23年度計画】 ○北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院としての役割を担うために、診療所では対応困難な歯科医療や診療情報の提供を積極的に行う。 ・情報提供の一環として、再編した診療科の診療内容、各病院への紹介方法を記載した病診連携パンフレットを作成・配布する。 ・北九州・筑豊生活圏の歯科診療所に大学のホームページをとおして附属病院の新着情報を提供するとともに、病院、診療所の連携アップを図る(対前年比5%増)。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○近隣歯科医師会及び歯科医院向けの病診連携パンフレットを配布した。 ○診療科再編に伴い、病診連携室を設置し、機能強化を図った。 ○病診連携数は2,540件で、H22年度(2,347件)に比べ増加した。 ○病診連携室を介して紹介があった患者数が病院総患者数に対して占める紹介率は23.7%となり、H22年度(22.3%)と比べ増加した。 ○過疎地・離島の歯科治療・相談については、福岡県と協議中である。	B	B		26								
	地域の基幹病院としての機能を果たすため、病診連携室の機能強化や対象範囲の拡大等を行った結果、患者紹介率は増加しており計画は概ね達成されたと考えられる。																

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			通し番号																		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番号	中期	年度																
1.	4【アジア等を主眼に置いた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助(口腔外科・保存・予防処置を中心として)に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進 ○達成目標 ・留学生数: 5人 ・学術交流件数: 国外3件、国内3件	4-1【平成23年度計画】 【発展途上国に対しての歯科医療技術援助】 ○発展途上国に対して行っている歯科医療技術援助を継続して行う。 ・ネパール、チュニジアにおける活動を継続し、東南アジアにおける歯科医療支援活動及び口腔保健活動を検討する。 ・本学学生の国際貢献活動の促進を図る。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○ネパール歯科医療協力隊の技術援助(25次) ・冬隊(12/27~1/3) 中村特任教授一行16名、うち本学学生1名 ○第24次ネパール歯科医療協力に関する報告書を作成し、教員に配布した。 ○チュニジア歯科医療技術援助については、高橋教授を中心に2/10~19の日程で参加。 ○東南アジアにおける歯科医療支援については、新たな対象地域の検討を行っているところである。	B	ネパールでの歯科医療技術支援については本学学生も参加の上実施しており、概ね計画を達成した。	No.24「国際交流協定」 No.25「学生、教員の国際交流」	1	29																	
		4-2【平成23年度計画】 【留学生交流と海外大学との学術交流推進】 ○現在在籍する留学生をとおして国際交流及び海外大学との学術交流を推進する。 ・学内留学生に対して、イベント等の情報提供を行う。 ・学術交流協定締結大学と今後の活動について、意見交換を行う。 ○数値目標 ・外国人留学生数 5名 ・学術交流 2大学			【平成23年度の実施状況】 ○留学生は、学部留学生1名(台湾1名)・大学院留学生2名(台湾1名、韓国1名)を受入れ、「留学生の集い」等のイベントや奨学金の情報提供を行った。 ・外国人留学生 3名 ・学術交流大学 2大学 ○学術交流協定締結大学との意見交換については、日程調整が不調となったため、実施できなかった。						B	年度計画を達成しているが、留学生数が増加していないことが今後課題として残された。	No.25「学生、教員の国際交流」	1	30												
					【中期目標期間の実施状況】 ・発展途上国に対しての歯科医療技術援助に関する取組として、ネパール及びチュニジアへ本学教員、学生を派遣し、医療支援、技術援助を行った。(H18-23) ・学会での講演、報告書、大学案内、ホームページなどで、国際貢献の実績を公開した。(H18-23) ・チュニジア報告会を学内で開催した。(H19) ・ネパール歯科医療支援事業20周年記念式典をH20年11月に大学講堂において、300名余の参加者で開催した。(H20) ・学部、大学院において留学生の受け入れを行った。(H18-23) ・学術交流大学: 国外2大学(韓国: 延世大学、中国: 同濟大学) ○目標実績											B	中期計画を概ね達成しているが、留学生数の増加に至っていない。今後、大学として戦略的な取り組みが必要である。	No.24「国際交流協定」 No.25「学生、教員の国際交流」	1	中期 21							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>留学生数</td> <td>4名</td> <td>6名</td> <td>5名</td> <td>5名</td> <td>6名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>学術交流</td> <td>2大学</td> <td>2大学</td> <td>2大学</td> <td>2大学</td> <td>2大学</td> <td>2大学</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	留学生数	4名											6名	5名	5名	6名	6名	学術交流	2大学
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																					
留学生数	4名	6名	5名	5名	6名	6名																					
学術交流	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学																					

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番号	中期
1.	5【地域住民の健康増進のための保健プログラムの構築と活用】 ①福岡県民を対象とした口腔保健及び全身の健康に関する保健プログラム・データベースの構築。 ②健診事業、データ入力及び集計に関して、一括して行う体制を構築する。 ○達成目標 ・健診事業・データ入力・集計受託実績：市町村などからの受託件数 5件	5-1 【平成23年度計画】 ○福岡県民を対象とした、地域住民の健康増進のための健診プログラムを継続して展開する。 ・モデル地区の地域診断を実施し必要な情報を得るとともに最新調査データを分析・評価した項目を、広報誌「福岡8020ニュース(No5)」に掲載発行し啓発活動を行う。 ・予防歯科分野で健診事業、データ集計を引き続き行う。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(No5)」に掲載し、関係機関(県内歯科医師会会員等)に配付し、地域住民へ啓発活動を行った。 ○予防歯科分野での健診事業は、みやこ町(171名)と西南女学院(322名)、口腔保健協会(1名)で行っており、データ集計を行っている。 ○「お口の健康セミナー」の一環として、H23年9月に北九州市と共催で地元住民のための市民公開講座に講師を派遣した。 ○病診連携室を中心に地域住民の要望等を把握するため講演会を開催した。	A	県民の健診データを載せた広報誌による啓発や予防歯科での健診データの集計、このデータを材料とした講演を行うなど、年度計画を十分実施している。			31
			1	1	【中期目標期間の実施状況】 ・口腔管理のモデル地区をみやこ町とし住民健診を継続的に実施した。(H18-23) ・みやこ町から町民歯科健診事業を受託した。さらに、H10年度から行ってきた県内9市町村の健診データを分析した。その結果の一部を「福岡8020ニュース」として発行し、県内歯科医師会員に配布し、地域住民への啓発活動を行った。(H18-23) ○健診受託件数 ・H18年度 1件(みやこ町は3町：勝山町、犀川町、豊津町が合併したもの) ・H19年度 2件 ・H20年度 3件 ・H21年度 3件 ・H22年度 3件 ・H23年度 3件	B	中期計画を概ね達成しているが、健診受託件数の増加に至っていないためB評価とした		中期	22
		ウェイト総計	中期 6	23年度 7	項目数計			中期 5	23年度 7	

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

社会貢献に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

① …社会貢献活動を総括する社会貢献委員会の下に、地域貢献、産学連携、自治体連携、国際協力、病診連携の各行動推進室を設置し、取組を推進している。

社会貢献に関する特記事項(平成23年度)

① …社会貢献活動を総括する社会貢献委員会の下に、地域貢献、産学連携、自治体連携、国際協力、病診連携の各行動推進室を設置し、取組を推進している。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自立的な大学運営を確立する。 理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。
----------------	--

項目	実施事項	平成23年度計画	ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号			
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期	年度		
1. 運営体制の改善 理事長のリーダーシップの下、効率的かつ状況に応じて俊敏に対処できる組織運営を目指す。	1【予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化】 ①理事長が中心となって策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員の効果的な配分を実施する。 ②大学全体の自己点検・評価に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しと再編成を行う。 ③事務局機能を強化する。	1-1【平成23年度計画】 【予算、人員の効果的配分】 ○大学が策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員を費用対効果を考え効率的な配分を実施する。 -前年の実績を踏まえて、本大学の教育研究目標に従った効率的な予算配分の実施する。 -学術研究費学長競争枠の予算の一部を若手研究者のための研究費に充て、研究意欲を喚起する。 -大学事務局の適正な人数及び組織強化のためのプロパー職員の人数について検討する。 -次期中期計画策定準備のための検討組織及びプロジェクトチームの運営を行う。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○附属病院において、更新計画に基づく生化学自動分析装置・病院モニターシステム等の機器更新を行った。(目的積立金:15機種・141,450千円) ○老朽化で故障がらであった医療機器MRIを最新機に更新し、これまで中断していた近隣医院・病院からの撮影依頼に応えることが可能となり、近隣病院等への撮影サービスの提供など、地域の中核病院としての役割を果たした。 ○動物実験施設の空調設備の経年老化による改修工事を行った。(目的積立金:54,516千円) ○研究意欲を喚起するため、学長競争枠予算から研究件数22件に対して2900万円を配分した。 ○若手研究者の研究費として、学長競争枠予算の1,000千円を1名に配分した。 ○大学事務局の組織強化のため、現行の県派遣職員中心の大学運営は派遣期間の短さから、ノウハウ蓄積・専門家の育成が困難といった問題の解決のため、当面5割を目途とした平成24年度以降のプロパー職員採用計画を立てた。 採用計画: 24年度 4名、25年度 0名、26年度 5名、27年度 2名 ○次期中期計画策定にあたり、素案に対する福岡県評価委員会からの課題等について、プロジェクトチームを中心に実施方針の検討を行った。	B					32	
		1-2【平成23年度計画】 【事務局機能の強化】 ○機動的・弾力的な組織運営を行うための事務局体制を検討し、整備する。 -事務局体制の整備・機能強化を図るため、給与支給事務等の外部委託を実施する。 -決算・会計事務について、専門業者への業務委託を見直し、専門職員を配置する。 -病院における診療費未収金の回収のために、1万円以上の滞納者に少額訴訟の手続きを行う。 -事務局職員のノウハウの継続性を維持するため、プロパー職員の採用・配置計画を検討し、採用試験を行う。	2	2	【平成23年度の実施状況】 ○事務局の給与支給事務について、事務処理改善のために23年10月から給与業務委託契約を結び、翌年3月まで並行運用することで、委託事務内容の検証・改善を行った。 ○決算会計事務については、平成23年6月末をもって外部委託を終了し専門知識と経験を持った職員を配置した。 ○診療費未収金については、文書及び電話により督促するなど毎月請求を実施した。 未収金 220件872,399円のうち、136件585,106円を回収 ○プロパー職員については、県立3大学合同で採用試験を実施し、平成24年4月に4名を採用することとした。 一般事務Ⅰ:出願数 515名 受験者数 255名 採用者数 3名 一般事務Ⅱ:出願数 13名 受験者数 10名 採用者数 1名 ○少額訴訟については、かつて勝訴したものの未払者の居所不明により効果が上がらなかったことがあったため、提訴にかかるコストを勘案して、文書督促や訪問等別途対策を講じた。	B						33
				【中期中期計画期間の実施状況】 -研究費については、学長競争枠研究費の活用等により、大学の教育研究目的に従った配分を行うとともに、予算の一部で若手研究者支援にも取り組んだ。(H18-23) -法人化に伴う業務量増への対応や組織強化を目的として、嘱託職員の積極的な雇用を行った。(H18-23) -附属病院に苦情処理及び未収金回収に従事する専任の嘱託職員を配置した。(H20-23) -決算会計事務については、一時的に外部委託を行う中でそのノウハウを取得し、外部委託終了(H23年6月)後は専門知識を持った職員を配置して外部監査人等からの指導を受けつつ適正に対応した。 -給与支給事務について、事務改善を図るため、外部委託を試行した。(H23) -事務局職員のノウハウの継続性を維持するため、プロパー採用計画を策定し、県立3大学合同で職員採用試験を実施した。(H23)	2			B				中期 23

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度	
1.	2【安全管理体制の充実】	2-1【平成23年度計画】 【安全対策の実施】 ○全学挙げて、安全対策を実施するとともに、職員の健康対策を考える。 ・安全防災委員会で、防災計画等を策定する。 ・防災訓練を実施することで、学内の危機管理意識を向上させる。 ・職員の健康管理維持や家族の団欒形成などの時間を作るため、ノー残業デーの推進を図る。 ・過労による労務災害(メンタル・ヘルス等)や自殺の防止のための研修等を実施する。 ・健康管理室の主導で、救命救急に関する講習会を開催する。 ・キャンパス禁煙の指示と同時に始めた大学周辺の清掃活動を教職員と学生で引き続き行う。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○防災計画を策定した。 ○附属病院で防災訓練を実施し、緊急時の対応等危機管理意識の向上に努めた。 ○事務職員を中心に週一日のノー残業デーを実施した。 ○衛生委員会でメンタル・ヘルス対策、労働災害の防止対策等について協議検討し、学内に周知・啓発した。 ○救命救急に関する講義を引き続き体育の時間に実施した。 ○教地内全面禁煙の一環として、教職員と学生による大学周辺清掃活動を毎月1日と15日に実施した。	B				34		
		2-2【平成23年度計画】 【事故防止対策の実施】 ○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染対策部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染対策及び医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を1年に2回以上開催する。 ・新入生のオリエンテーションの際に、学内全面禁煙の徹底及び大麻等の薬物の禁止と新型インフルエンザの予防について注意喚起する。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○ヒヤリハット報告を事故防止に繋げるため、医療事故予防対策委員会や関係部会を開催し、結果を職員へ周知したほか、月1回の院内巡視も行った。 ・リスクマネジメント部会 毎月1回 年間12回 ・院内感染対策部会 毎月1回 年間12回 ・医療事故予防対策委員会 毎月1回 年間12回 ○院内感染及び医療事故及び薬剤安全に関する講習会を2回実施した。 ○新入生オリエンテーション時に、薬物の危険性や薬物に関する犯罪の現状等について警察の講話を実施した。また、新型インフルエンザについては、本学健康管理室の保健師より説明及び注意喚起を行った。	B				35		
			1	1	【中期目標期間の実施状況】 ・リスクマネジメント部会、医療事故予防対策委員会及び院内感染委員会を毎月1回開催し、ヒヤリハットや事故防止策について職員に周知した。(H18-23) ・H20年度に設置した安全防災委員会が中心となって、協議、組織の整備、準備等を進め、H23年度に防災計画を策定した。 ・新入生オリエンテーションや体育の授業を活用して、救命救急に関する事項を詳しく説明した。(H20-23) ・院内感染及び医療事故防止に関する講習会を年2回開催した。(H18-23) ・実習に起こりうる学生の事故防止対策として事例集を作成した。(H19) ・院内感染防止のため、毎月1回の院内巡視を行い、きめ細やかな指摘や注意を行った。(H20-23) ・院内感染及び医療事故に関する講習会を年2回実施した。(H18-23) ・新型インフルエンザの予防については、全教職員及び学生に対してメール、ホームページ、チラシ等を通じて注意喚起を行った。(H18-23)	B				中期目標期間の各年度において、事故防止に関する部会や委員会を計画どおり開催し職員への周知を図るほか、講習会も計画どおり実施しており、目標を達成している。		中期 24
2. 人事の適正化 人事評価システムを整備し活用することで柔軟で多様な人事制度を構築する。	1【教員個人業績評価制度の導入】	1-1【平成23年度計画】 ○教員個人業績評価システムのブラッシュアップに取り組む。 ・教員による大学運営への積極的に参加を促すための制度の評価対象項目を引き続き拡充する。 ・低評価者に対する指導・支援等の対応を充実させる。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○法人・大学に特に貢献した活動を行った教員2名に特別賞を与えた。 ○個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せする現行制度を継続した。 ○個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導(分野長同席)を行った。	B				36		
			1	1	【中期目標期間の実施状況】 ・個人業績評価制度を導入し、全教職員に周知徹底した。(H18) ・評価結果の給与への反映を行った。(H19-23) ・同僚による授業評価を本格導入し、制度をブラッシュアップした。(H20) ・個人業績評価が上位であるか、又は業績が改善した教員に、給与を上乗せして支給する制度を、必要に応じて見直しを行いながら実施した。(H20-23) ・個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を行った。(H21-23)	B				評価対象項目の拡充には至らなかったものの、個人業績評価システムは定着しており、教員の優れた業績に対して給与に適切に反映する等、概ね計画どおり進んでいる。		中期 25

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番号	中期
2.	2【任期制の導入】 ①全教員を対象とした任期制を導入する。	2-1【平成23年度計画】 【任期制の導入】 ○任期制導入後6年目となるため、教員再任審査ために学内に再任審査委員会を設置し、教員から申出書の提出を受け、定められた再任審査基準に基づき審査する。 ・「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の再任手続きを開始する。		1	【平成23年度の実施状況】 ○再任審査委員会において、規則に定められた手続きに基づき再任申請を行った7名の教員について審査を行い、全員の再任を決定し理事長に報告した。 ○該当教員に再任通知を行った。		B	No.28「任期制同意状況」		37
			1		【中期目標期間の実施状況】 ・任期制を導入した。(H18) ・対象者の任期制への移行を順次進めた。(H18-23) ・「任期制教員再任基準」を理事会の議を経て決定し、全学説明会及びホームページで全教職員に周知した。(H20) ・副理事長を委員長とする「再任審査委員会」を設置した。(H22) ・「再任審査委員会」において、所定の手続きに則り、対象教員に対する審査、再任の適否の決定を行った。(H22-23)	B	おおむね良好に運用されてきた。	No.28「任期制同意状況」	中期	26
		ウェイト総計	中期 5	23年度 7			項目数計		中期 4	23年度 6

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

4-1-1-1-2 : 法人の事務に機動的・弾力的に対応できる体制の確立が本学の重点目標である。特に人事、予算、給与等の管理部門の充実と、附属病院の管理運営を司る部門の強化が不可欠となっている。

業務運営に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

業務運営に関する特記事項(平成23年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 5 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」</p> <p>大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行なう。収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。附属病院については、医療サービスの向上と経営の改善に積極的に取り組む。</p>
----------------------	---

項目	実施事項	平成23年度計画	ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期	年度															
1. 自己収入の増加 ・学生納付金のあり方を検討する。 ・附属病院の患者紹介率アップ、資産の有効活用、外部からの研究費獲得の増加等の方策により、自己収入の増加を図る。	1【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②未納金に対する取り組みを強化する。 ○達成目標 ・収納率:100%	1-1【平成23年度計画】 ○学生納付金の確保のため授業料等未納金に対する取り組みを強化する。 ・未納者に対して、呼び出し連絡(学内掲示)し、事情を把握したうえで、納付指導を徹底する。 ○数値目標 ・教員・事務局職員で連絡会を作り情報の共有し、督促業務を行い収納率100%をめざし未収金の解消を推進する。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○財務管理班及び学生支援班において、授業料等未納学生の情報共有を密に行い、未納者に対しては呼出、納付相談及び保護者への督促等を実施した。 ○この結果、授業料等学生納付金については過年度も含めて全額を収納し、平成23年度未現在、未収金を解消した。(収納率100%を達成した。) 未収金回収実績 過年度からの繰越分: 3件 803,700円 当該年度発生分 :33件 8,304,900円	A	未納金に対する取組を強化し収納率100%を達成した。	No.29「学生納付金等」	38																
		【中期目標期間の実施状況】 ・H19年度から教員と事務局職員で構成する「連絡会」を設置し、情報の共有化に努めている。 ・財務管理班及び学生支援班において、授業料等未納学生の情報共有を密に行い、未納者に対しては呼出、納付相談及び保護者への督促等を実施してきた結果、収納率においては順調に成果を収めてきた。 ・期間末においては過年度を含めた未納を全て解消し収納率100%達成となった。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="918 782 1523 837"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収納率</td> <td>99.8%</td> <td>100%</td> <td>99.9%</td> <td>99.6%</td> <td>99.8%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								H18	H19	H20	H21	H22	H23	収納率	99.8%	100%	99.9%	99.6%	99.8%	100%	B	未納金に対する取組を強化し収納率100%を達成した。	No.29「学生納付金等」
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																			
収納率	99.8%	100%	99.9%	99.6%	99.8%	100%																			
2【診療報酬の確保】 ①患者紹介率の向上を図る。 ②人間ドック、歯科ドックなど検診分野での収入増を図る。 ○達成目標 ・患者紹介率:30%以上	2-1【平成23年度計画】 【患者紹介率の向上】 ○基本診療料の施設基準で患者紹介率20%以上で実施件数(手術件数)30件以上の条件を満たすため、患者紹介率35%以上を維持する。 ・設置した病診連携室に患者紹介を一元化し、効率化・適正化を図る。 ・近隣の医師会及び歯科医師会を訪問し、各会員へ患者紹介の依頼を行う。 ・紹介方法についてホームページを充実させる。 ○数値目標 ・紹介患者数 4,500件 ・診療報酬額 11.8億円	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○患者紹介率のH23年度実績は、新患者総数10,725件に対し紹介患者数4,161件で紹介率38.8%であった。 ○病診連携室に患者紹介を一元化し、効率化・適正化を図った。 ○近隣歯科医師会及び歯科医師向けリーフレットを改善し配布するとともに、患者紹介を依頼した。 ○診療報酬額は11億1千2百万円であった。 ○診療科再編を行ったが、一部準備中の診療科・室があるため、その準備が整い次第、病院HPも変更する予定である。	B	近隣歯科医師に対しリーフレット等により患者紹介を依頼したことにより、患者紹介率が目標を上回るなど、概ね年度計画を達成した。		39																	
				2-2【平成23年度計画】 【検診分野での収入増】 ○歯科ドックをPRすることや、検診分野で1,000千円(年間合計額)の収入を目標とする。 ・特定検診その他の検診(科目)事業を増加させる。 ・歯科ドックや歯科検診事業を依頼する企業を増大させる。 ・平成21年度からの学内全面禁煙を機に、禁煙促進に取り組む。					【平成23年度の実施状況】 ○歯科ドックについてPRに努めた。 ○検診を依頼する企業については、前年度より件数は減ったが、平成21年度の水準より上回っている。 ○検診実績 1,340千円 ・人間ドックのH23実績 361千円(H22実績 559千円) ・歯科検診のH23実績 478千円(H22 実績 495千円) ・大腸がん、前立腺がん、肝炎ウイルス、胃がん検診のH23実績 22千円(H22実績57千円) ・特定健診のH23実績 479千円(H22 実績361千円) 【実施状況】 <table border="1" data-bbox="918 1244 1299 1340"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・人間ドック</td> <td>10件</td> <td>17件</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>・特定健診</td> <td>51件</td> <td>44件</td> <td>55件</td> </tr> <tr> <td>・北九州市</td> <td>11件</td> <td>11件</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>・歯科検診</td> <td>149件</td> <td>182件</td> <td>165件</td> </tr> </tbody> </table> ○キャンパス内全面禁煙に併せた附属病院内科の禁煙外来を続けて実施。		H21	H22	H23	・人間ドック	10件	17件	11件	・特定健診	51件	44件	55件	・北九州市	11件	11件	10件
	H21	H22	H23																						
・人間ドック	10件	17件	11件																						
・特定健診	51件	44件	55件																						
・北九州市	11件	11件	10件																						
・歯科検診	149件	182件	165件																						

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○近隣の医師会や歯科医院への働きかけにより、患者紹介率は年々増加している。H21年度にはリーフレットの改善を行った。</p> <p>・H18年度 患者紹介率:33.4% ・H21年度 患者紹介率:40.3%</p> <p>・H19年度 患者紹介率:38.0% ・H22年度 患者紹介率:40.5%</p> <p>・H20年度 患者紹介率:40.1% ・H23年度 患者紹介率:38.8%</p> <p>○人間ドックの収入及び歯科検診に係る収入ともに低迷している。</p> <p>・H18年度 人間ドック:361千円</p> <p>・H19年度 人間ドック:722千円</p> <p>・H20年度 人間ドック:723千円 歯科検診:829千円</p> <p>・H21年度 人間ドック:361千円 歯科検診:925千円</p> <p>・H22年度 人間ドック:559千円 歯科検診:495千円</p> <p>・H23年度 人間ドック:361千円 歯科検診:478千円</p> <p>○H20年度には、念願であった大腸ガン、前立腺ガン、肝炎ウイルス及び胃ガンの特定検診をスタートさせた。</p> <p>・H20年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診:38千円 特定健診:211千円</p> <p>・H21年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診:49千円 特定健診:410千円</p> <p>・H22年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診:57千円 特定健診:361千円</p> <p>・H23年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診:22千円 特定健診:479千円</p> <p>○H21年度には、キャンパス内禁煙について敷地内に看板の設置を行い、附属病院内に禁煙外来を設置した。</p>	B	患者紹介率は23年度に昨年度を若干下回ったが、目標期間の起点時から着実に上昇している。		中期 28		
1	3【施設整備の有効活用等】	3-1【平成23年度計画】	1		<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○会議室、講義室及び講堂等大学施設の学外者利用を推進し、平成23年度の施設使用料等は7,499千円を収入した。</p> <p>○解剖棟内動物実験施設については、空調設備を改修した。</p> <p>○「Q-shidaiゼミ」については、デモプログラムを充実することにより利用者数の増に努めた。(平成23年度利用者数:203名)</p>	B	・大学施設を有効に活用し施設利用料を獲得しているなど、概ね年度計画を達成した。		41		
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>・大学施設の有効活用については、「学外者施設利用要綱」を策定し、各種イベント等の利用を推進する中で、中期目標期間の6年間に於いて施設利用料等64,481千円の収入があった。</p> <p>○施設利用料</p> <p>・H18年度 8,051千円</p> <p>・H19年度 12,921千円</p> <p>・H20年度 13,016千円</p> <p>・H21年度 12,400千円</p> <p>・H22年度 10,594千円</p> <p>・H23年度 7,499千円</p> <p>・「e-learning」については、コンテンツの充実に向けてきたが、受講料収入を得るまでには至らなかった。</p>	B	・中期目標期間において、年平均1千万円以上の収益を獲得し、法人経営に寄与した。		中期 29		

中期計画		平成23年度計画	ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																				
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期	年度																			
1	4【外部研究資金の増収】 研究の活性化のために、科学研究費補助金、各種研究開発事業助成金、企業からの共同研究費、受託研究費、奨学寄附金の獲得増および知的財産を利用した収入の増を図る。 ○達成目標 ・外部研究資金収入：1億円	4-1【平成23年度計画】 【外部研究資金等の増加及び知的財産を利用した収入増】 ○外部研究資金等の増加を目指すとともに、産学連携の視点に立って研究費獲得を推進する。 ○知的財産を利用した収入増を図る体制を構築する。 ・北九州産業学術推進機構(北九州TLO)を活用し、特許の申請および活用を促進する。 ・埋もれている知的財産をいかに活用できるか考えて、重点的に企業との連携に積極的に取り組む。 ○治験(薬の有効性、安全性を調べる臨床試験)受託の増加を目指す。 ○数値目標 外部研究資金等収入 1億3千万円		2	【平成23年度の実施状況】 ○外部研究資金の獲得に努めた。 その結果は以下のとおりであり、獲得金額は、前年度を16,039千円程度上回った。 <table border="1"> <tr> <td>H23年度実績</td> <td>95件</td> <td>185,898千円</td> <td>(H22年度実績</td> <td>97件</td> <td>169,109千円)</td> </tr> <tr> <td>うち共同研究</td> <td>5件</td> <td>2,553千円</td> <td>(H22年度実績</td> <td>1件</td> <td>1,500千円)</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>5件</td> <td>18,932千円</td> <td>(H22年度実績</td> <td>4件</td> <td>2,501千円)</td> </tr> </table> ○北九州TLOを有効に活用し、知的財産の運用を行った。 知的財産使用収入 H23年度 23千円(H22年度 8.8千円) ○治験については、実績なし。 ○目標実績 外部研究資金収入 1億8千5百万円	H23年度実績	95件	185,898千円	(H22年度実績	97件	169,109千円)	うち共同研究	5件	2,553千円	(H22年度実績	1件	1,500千円)	受託研究	5件	18,932千円	(H22年度実績	4件	2,501千円)	B		No.20「研究」		42	
H23年度実績	95件	185,898千円	(H22年度実績	97件	169,109千円)																								
うち共同研究	5件	2,553千円	(H22年度実績	1件	1,500千円)																								
受託研究	5件	18,932千円	(H22年度実績	4件	2,501千円)																								
			1	【中期目標期間の実施状況】 ・教授会を中心に、科研費をはじめとする外部研究資金の募集情報や応募・採択情報の共有に努め、特に若手研究者の応募を促進した。 ・知的財産に係る収入増を図るため、北九州産業学術推進機構(北九州TLO)を活用した特許の申請及び運用を行ったほか、企業との連携にも積極的に取り組んできた。 ○目標実績 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H18</td> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> </tr> <tr> <td>外部研究資金収入</td> <td>120,763千円</td> <td>123,721千円</td> <td>163,069千円</td> <td>132,883千円</td> <td>169,109千円</td> <td>185,898千円</td> </tr> <tr> <td>知的財産使用料収入</td> <td>156千円</td> <td>280千円</td> <td>57千円</td> <td>62千円</td> <td>9千円</td> <td>23千円</td> </tr> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	外部研究資金収入	120,763千円	123,721千円	163,069千円	132,883千円	169,109千円	185,898千円	知的財産使用料収入	156千円	280千円	57千円	62千円	9千円	23千円	A		No.20「研究」	中期 30
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																							
外部研究資金収入	120,763千円	123,721千円	163,069千円	132,883千円	169,109千円	185,898千円																							
知的財産使用料収入	156千円	280千円	57千円	62千円	9千円	23千円																							
2. 経費の抑制 職員の意識改革を進めるとともに、経費の削減に取り組む。	1【人件費の抑制】 ①設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。 ②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。 ○達成目標 ・人件費削減率：法人化前の5%以上	1-1【平成23年度計画】 ○今年度運営交付金算定上の人件費(退職金を除く)1,933百万円以内の運用に徹する。 ・教員数については、教員の質維持を厳守し、退職者補充と新組織の編成を進め、厳しい要員管理を継続する。 ・事務職員については、増加する業務への円滑処理を優先させ中期的展望に効率化策を検討し、外部パワーの積極登用も含め適正要員配置に努める。		2	【平成23年度の実施状況】 ○教員については、要員の管理と質の維持向上に努めた。 ○人件費(退職金を除く)は、1,818百万円であり、目標の範囲内に抑えることができた。 ○増加する業務に対しては、業務の熟達度向上や業務の円滑処理等により時間外勤務を抑制できた。(対前年比301万円の減) ・H23年度：16,028千円 H22年度：19,040千円 ○事務職員の中期的展望に立った効率化対策として、専門性を持ったプロパー職員採用計画を立て県立三大学合同採用試験を実施し、24年4月から4名の採用を決めた。	B		No.31「経費削減」	43																				
			1	【中期目標期間の実施状況】 ・教員については、退職者の不補充や分野廃止に伴う現員数での配置換えなど大学全体のバランスを考慮した適正配置に努め、設置基準を遵守した人事管理を行い、また事務職員については病院事務において外部委託化を進めるなど、人件費の抑制に努めた。 ・事務部門の業務内容の見直しや外部委託化などにより、時間外勤務手当の削減を進めた。 ○目標実績 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H18</td> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> </tr> <tr> <td>人件費(退職金を除く)</td> <td>1,889百万円</td> <td>1,908百万円</td> <td>1,857百万円</td> <td>1,752百万円</td> <td>1,815百万円</td> <td>1,818百万円</td> </tr> <tr> <td>H17(1,988百万円)からの削減率</td> <td>5.0%</td> <td>4.0%</td> <td>6.6%</td> <td>11.9%</td> <td>8.7%</td> <td>8.6%</td> </tr> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	人件費(退職金を除く)	1,889百万円	1,908百万円	1,857百万円	1,752百万円	1,815百万円	1,818百万円	H17(1,988百万円)からの削減率	5.0%	4.0%	6.6%	11.9%	8.7%	8.6%	B		No.31「経費削減」	中期 31
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																							
人件費(退職金を除く)	1,889百万円	1,908百万円	1,857百万円	1,752百万円	1,815百万円	1,818百万円																							
H17(1,988百万円)からの削減率	5.0%	4.0%	6.6%	11.9%	8.7%	8.6%																							

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		中期 変更	年度		中期 変更	年度																					
2	2【職員の意識改革、経費の節減】 ①附属病院において、診療科ごとに患者数、収支を把握し、これを職員ひとり一人に周知することにより、経営に関する意識改革を進める。 ②光熱水費、コピー経費、その他の経費の節約を、全教員へ周知徹底する。 ③九州工業大学、産業医科大学との学術交流協定に基づき設備を相互活用することにより、設備の有効利用、整備費の削減を図る。 ○達成目標 ・光熱水費、コピー経費、その他の経費の削減率: 4%	2-1【平成23年度計画】 【職員の意識改革】 ○教員、職員すべてに対し、経営に関する意識改革を推進する。 ・大学幹部と事務局部長以上の拡大役員会を通じて、問題点を協議することで認識の共有化や職員のやる気をおこす。 ・理事長自らが中期計画、或いは法人職員の心構えなどを全学説明会や新任の教職員のオリエンテーションなどを通じて周知に取組み意識改革に努める。		1	【平成23年度の実施状況】 ○大学幹部(理事長・学内理事)及び事務局部長とで構成された拡大役員会を毎月1回開催し、意志疎通や相互理解を深め認識の共有化を行った。 ○理事長自らが理事会決議事項や外部評価の結果を伝える全学説明会を開催し、法人職員としての経営感覚や問題意識の補え付け及び次期中期計画の周知を行った。 ○新任教員・事務職員を対象に、学長自らオリエンテーションを開催し、法人職員としての意識付けを行った。 新任教員:4月7日・新任事務職員:5月10日		B			44																					
		2-2【平成23年度計画】 【経費の節減】 ○職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・節電として、夏期・冬期の設定温度の適正化に努め、こまめに設備機器の電源OFFし、省エネ策を講じる。 ・事務用品の使用(コピー用紙等)について、効率性を考えて行う。(両面コピーの奨励) ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応を、分析して抑制策を継続して行う。 ・法人経費実施を繰り返し全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。 ・病院機器の更新は、平成21年度に作成した計画(3年間)に従い、優先度の高いものから決定し経費執行する。 ○数値目標 ・光熱水費 対前年比 Δ1% ・コピー用紙 対前年比 Δ5%		1	【平成23年度の実施状況】 ○事務室等における消灯の徹底、共用部分の照明の間引き等の節電対策、その他省エネ対策を実施し、電気使用量、ガス使用量共に昨年度より削減(原油換算で約3%減)したものの、電気事業者及びガス事業者の燃原料調達コストの上昇により電気料金、ガス料金共に増加した。 ○コピープリント等の経費は両面コピーの推進等により約4%を削減した。 ○全学説明会において学長自ら法人の経営状況を教職員に説明し、コスト意識を醸成した。 ○附属病院ではS.P.Dによる物品管理で診療材料費は昨年並み、保険診療に占める材料費比率は低減するなど抑制策の効果が見られた。 ○附属病院の機器更新は、目的積立金等を活用し更新計画に基づき優先度の高いものから実施した。 ○目標実績 光熱水費 対前年比+4.2% コピー用紙 対前年比Δ4%		B	Na.31「経費削減」			45																				
				1	【中期目標期間の実施状況】 ・理事長が主催する全学説明会や新任教職員のオリエンテーションにおいて、法人の経費構造等を説明し、法人職員としての経営感覚の醸成を図った。(H18-23) ・光熱水費の削減については、消灯の徹底、共用部分照明の間引き、空調設定温度の変更、エレベーター利用の適正化、講堂棟エレベーター稼働停止等の取組を継続及び強化した。(H18-23) ・コピープリント費については、両面コピーの徹底、電子データ活用等の推進を図り経費削減に取り組んだ。(H18-23) ・附属病院において、診療科別の実績を病院運営部会へ報告し、病院経営に関する意識の向上に努めるとともに、診療材料費についてはSPDシステムの委託により見直しを図った。(H18-23) ○目標実績 <table border="1" data-bbox="918 1021 1612 1085"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>光熱水費</td> <td>179,102千円</td> <td>201,355千円</td> <td>213,113千円</td> <td>197,189千円</td> <td>205,442千円</td> <td>214,071千円</td> </tr> <tr> <td>対前年度比</td> <td>108.8%</td> <td>112.4%</td> <td>105.8%</td> <td>92.5%</td> <td>104.2%</td> <td>104.2%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	光熱水費	179,102千円	201,355千円	213,113千円	197,189千円	205,442千円	214,071千円	対前年度比	108.8%	112.4%	105.8%	92.5%	104.2%	104.2%		B	おおむね中期計画が達成されたと判断した。 Na.31「経費削減」		中期 32
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																									
光熱水費	179,102千円	201,355千円	213,113千円	197,189千円	205,442千円	214,071千円																									
対前年度比	108.8%	112.4%	105.8%	92.5%	104.2%	104.2%																									
3. 附属病院経営の改善 医療サービスの向上による患者の確保、業務の見直し、効率化等による人員の効率的配置、経費の削減を通じ、経営改善を図る。	【地域医療サービスの向上の推進】 ①摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ②歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。 ③患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。 ④ボランティアの受け入れを行う。 ⑤口腔健診業務への参入を図る。 ○達成目標 ・患者紹介率: 30%以上 ・患者アンケート: 教職員の対応やサービスに関する満足度(普通より上のレベル) 70%	1-1【平成23年度計画】 【摂食・嚥下リハビリテーションの実施】 ○摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ・一般外来や訪問診療の高齢者に対して、摂食・嚥下リハビリテーションの意識を患者並びに患者家族に説明し、患者満足度の向上に努める。 ・入院患者及び手術後の患者に対して、口腔ケアを実施することで、患者のQOL(人が充実感や満足感を持って日常生活をおくることができること)向上を図る。 (目標数値:300件 400,000円)保険点数に反映されない口腔ケアとリハビリテーションを行っているため減額となる。 ・嚥下機能診断を的確に診断する機器類を整備する。 ○数値目標 ・患者アンケートによる満足度 75%以上		1	【平成23年度の実施状況】 ○病棟入院患者および他病院入院患者に対して口腔ケア指導を積極的に行い、H23年度実績はのべ302名であった。(H22年実績:468名) ○患者及び介護・看護者に対して摂食・嚥下リハビリテーションに関する説明文書(摂食嚥下リハビリテーション実施ノート)の配布や嚥下障害のある場合の丁寧な説明など、食事をおとして患者の生きる活力を醸成するなど引き続き患者満足度の向上に努めた。 ○患者紹介率は38.8%と目標を上回った。 ○患者アンケート(手渡し法)による満足度は85%と目標数値を上回った。 ○目標実績 患者紹介率 38.8% 患者アンケート(手渡し法)による満足度 85%		B		入院患者等に対する口腔ケア件数、患者紹介率、患者満足度ともに目標を上回るなど、概ね年度計画を達成した。			46																			

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号														
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度												
		1-2 【平成23年度計画】 【訪問診療体制の導入】 ○歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療、病診連携、病病連携の体制を構築する。 ・社会的要請の増大を受けて、新規連携病院の開拓と増加を図る。 ・当病院中心の訪問歯科診療体制から、地域の歯科医院との連携を主体とした専門的支援体制への移行を図る。		1	【平成23年度の実施状況】 ○これまで連携をとってきた北九州八幡東病院、新日鏡八幡記念病院、JRM司病院に加え、小倉第一病院へも訪問診療を定期的に実施した。また、北九州医療センターに当病院医師を定期的に派遣し入院患者の口腔ケアにあたらせるなど病病連携を構築した。 ○訪問診療の実績 ・件数 213件 (H22年度 204件) → 3.9%増 ・収益 1,106,200円 (H22年度 1,225,140円) → 9.7%減		B			47													
		1-3 【平成23年度計画】 【地域住民との懇談会】 ○地域住民との懇談会等を開催し、患者のニーズを聴取する。 ・各種講演会等を開催することを契機に、周辺の地域住民から病院への要望や歯の悩みなどを聴取する。		1	【平成23年度の実施状況】 ○病診連携室が主体となって、「歯と健康」をテーマに講演会(市民公開講座)を開催した。またアンケートにより市民(地域住民)の要望等の把握に努めた。 ○同意会との共催で、校区内所在の中学校 brassバンドを招きロビーコンサート(病院2F)を開催し、入院患者や地域住民との交流を図った。 ○理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、地域の方々との意見交換を行った。		B			48													
		1-4 【平成23年度計画】 【健診業務】 ○歯科健診センターを病診連携室に附属させ、口腔健診業務を推進する。 ・前年度実施分の継続実施に努め、さらに新規開拓を引き続き検討する。		1	【平成23年度の実施状況】 ○外部健診業務については、昨年度に引き続きみやこ町(171名)、西南女学院(322名)、口腔保健協会(1名)において実施した。 ○受診者アンケートの結果は満足度98.6%(実績数493名)となり、目標(満足度70%)及び昨年度(98.3%)を大きく上回った。 ○健診業務については、平成23年度に病診連携室を設置したことで連携等窓口を一本化させ、新規開拓に努めた。		B			49													
				1	【中期目標期間の実施状況】 ・H19年度から入院患者に対する口腔ケアの指導体制を強化し、摂食・嚥下リハビリテーションに関する説明文書の配付や、嚥下障害がある場合には嚥下内視鏡検査の画像などの提示・説明を行うなど、患者の満足度の向上に努めた。 延べ患者数 H19年度：220名 H22年度：468名 H20年度：275名 H23年度：300名 H21年度：492名 収入額 H19年度：407千円 H22年度：699千円 H20年度：729千円 H23年度：400千円 H21年度：764千円 ・訪問診療については、H19年度から2病院と連携して定期的に実施した。 件数はH19年度195件 → H20年度381件 → H21年度178件 → H22年度164件 → H23年度169件 ・患者ニーズを把握するための地域住民との懇談会の実施には至らなかったものの、H19年度に4大学スクラム講座を聴講した地域住民の歯科相談に応じたほか、病院への要望や歯の悩みを聞くロビーコンサートを実施した。H21年度には、附属病院主催で「第1回お口の健康セミナー」を開催し、非常に好評であったためH22年度から定期的に行うこととした。 ・H21年度は、泉台校区町づくり推進協議会との連携を開始し、H22年度及びH23年度は理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、今後の連携方法について検討した結果、H24年度から出前講座を開始することとなった。 ・口腔健診業務は、みやこ町と西南女学院に加え、H20年度から口腔保健協会でも実施した。 ○目標実績		A ↓ B			中期 33													
					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者紹介率</td> <td>33.4%</td> <td>38.0%</td> <td>40.1%</td> <td>40.3%</td> <td>40.5%</td> <td>38.8%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	患者紹介率	33.4%	38.0%	40.1%	40.3%	40.5%	38.8%				
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
患者紹介率	33.4%	38.0%	40.1%	40.3%	40.5%	38.8%																	

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
2	<p>【経営の効率化を推進するためのシステムの構築】</p> <p>①教職員の適正配置を行い、専門外来(口腔外科や歯周病科など)における先進医療を進める。 ②治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカルパス(標準的な臨床指針)を導入する。 ③附属病院の薬剤業務を院外処方にし、薬剤師は入院患者への薬剤情報提供を専門に行い、入院患者へのサービスを図る。 ④附属病院のホームページを利用した診療に関するサービスを提供する。 ⑤歯科材料を効率的に流通させるシステムを導入し、材料費の削減を図る。</p> <p>○達成目標 ・患者アンケート:教職員の対応やサービスに関する満足度(普通より上のレベル) 70% ・医療材料費率:18年度中に、適正な医療材料を明確にして数値目標の設定を行なう。</p>	2-1	<p>【平成23年度計画】</p> <p>【高度先進医療の推進】 ○診療科再編に伴い、各診療科へ教職員を適正配置し、専門外来における先進医療を進める。 ・平成20年度に2件承認された先進医療の認定取得を更に進める。</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○H20年度に承認された2件の先進医療(歯周病及びインプラント)を進めている。 ・(歯周病)歯周炎による骨欠損再建手術 ・(インプラント)植え込みによる義歯作成 ○新規先進医療申請に向け、保存科及び義歯科において症例を収集中である。</p>	B	承認済みの先進医療2件に係る診療を進めており、新規申請については関係分野で準備を進めているところであり、概ね計画を達成していると考えます。		50	
		2-2	<p>【平成23年度計画】</p> <p>【クリティカル・パス】 ○完成した共通マニュアルを実施することで、どのような問題点が存在するか考察するとともに改良・改善する。</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○平成21年度に完成した各科共通のクリティカルパスを各診療科で利用し、問題点等について考察を進めている。</p>	B	完成したクリティカルパスの問題点等の考察を続けているところであり、年度計画を達成している。		51	
		2-4	<p>【平成23年度計画】</p> <p>【ホームページの活用】 ○附属病院のホームページを利用した診療に関する充実した情報サービスの提供を検討する。 ・見やすく操作しやすいホームページに改善する。 ・地域中核病院の治療内容を詳細に掲載する。 ・昨年度10月の診療科の再編を契機として、懸案として引き継がれたわかりやすい病院組織、案内等を掲載する。(わかりやすいパンフレットを作成・配布する。)</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○22年度に診療科再編はほぼ終了したが、23年度においても一部準備中の診療科・室が残っており、その準備が整い次第地域中核病院にふさわしいHPに更新する予定である。 ○病診連携室のページに「新患担当表」を掲載した。また、紹介医から提出してもらう「医療情報提供書」について、ホームページからのダウンロードが可能となった。 ○診療科再編後の病診連携パンフレット及びリーフレット(新患担当表)を作成し、関係機関に配付した。</p>	B	附属病院のホームページの更新については、経費削減の観点から診療科再編を見据えて行う予定であり、病診連携パンフレットは配布した。概ね計画を達成した。		52	
		2-5	<p>【平成23年度計画】</p> <p>【効率的な歯科材料流通システムの導入】 ○医科・歯科材料費のムダを省き、効率的な予算執行を継続する。 ・医科・歯科で利用する同種材料についてS.P.D.(医薬品等供給管理室)データを詳細に検討し、できる限り安価で上質の材料に一本化を図るとともに、これにより不必要となる材料の購入を中止する。 ・一般保険診療の医療材料費率を21%と設定する。 ・院外処方を採用する。</p>	1	<p>【平成23年度の実施状況】</p> <p>○物品供給管理室(SPD)において、診療材料を徹底的に見直し、不必要材料の購入中止及び同種材料の統一化を図った。 ○SPDシステムの活用により、昨年並みに診療材料費を抑えることができた。 22年度 87%→23年度 87% ○H23年度の一般保険診療の医療材料費比率は22%とほぼ目標数値の域に達した。 22年度 25% → 23年度 22% ○平成23年12月1日から院外処方を実施した。</p>	B	診療材料費を抑制するとともに一般保険診療の診療材料費比率についてはほぼ目標値に達するなど、SPDによる診療材料費の見直しは着実に進んでいる。また、院外処方も実施するなど、概ね計画を達成した。		53	
					<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>・高度先進医療に関して保険給付を受ける特定承認保険医療機関となるため、H18年度から承認申請を行い、H20年度にインプラント及び歯周病に関し先進医療の認定を受けた。H21年度からは、H20年度に承認された2件の先進医療を進めている。また、新規先進医療保存科及び義歯科において、申請に向けて症例を収集中である。先進医療に関する詳細は、随時ホームページで更新している。 ・治療や看護の手順を標準化し診療の効率化を図るためのクリティカル・パスについては、各診療科のマニュアルをもとに検討を進め、外来患者が最も多い保存診療科を手始めとしてH20年度に口腔外科及び補綴が完了した。H21年度には、各科共通の九州歯科大学附属病院クリティカル・パスが完成し各診療科に配付した。 ・H23年12月から院外処方を実施し、薬剤師は入院患者に対する服薬指導を開始した。なお、入院患者への情報提供の充実を図るため、薬剤師を現在の2名から3名に増員すべく募集中である。 ・ホームページにおいて、新規に導入した技術や治療法を公開したほか、歯科医院向けに患者紹介方法を掲載し、情報サービスを行った。H21年度は、マイナーチェンジ(各診療科で新しい治療法や材料等の情報提供)を行ってきた。 ・H22年度に行われた診療科目の再編をふまえた病診連携パンフレットやリーフレットを作成した。 ・効率的な歯科材料流通システムを実現するため物品供給管理室業務(SPD)を導入し、不必要材料の発注中止や同種材料の統一化を行い、より効果的な在庫管理が可能となった。これにより、病院収入に対する材料費の割合は、H19年度16.2%→H20年度15.9%→H21年度14.0%となった。</p>	1				中期 34
ウェイト総計			中期 8 23年度 18				項目数計	中期 8 23年度 16		

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	データ 番号	中期

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- 5-1-4-1: 平成23年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。
5-2-5-1: 教員数と事務職員数を適正管理し、効率的な配置を行う。

財務に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

財務に関する特記事項(平成23年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 6 評価	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。 計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。
--------------	---

項目	実施事項	中期計画		ウエイト 中期 年度	計画の実施状況	自己評価		データ 番号	直し番号	
		平成23年度計画	年度			中期 変更	年度		中期	年度
1. 評価の充実・教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を行い、その結果を公表する。 ・県評価委員会や認証評価機関の評価結果を大学運営に反映させる。 ・教員の個人業績評価を給与に反映させる。	1【大学評価・個人業績評価の充実と評価結果の公表・反映】 ①大学運営に関する自己点検・評価を実施するとともに、県評価委員会と学外認証評価機関が行った評価結果を教育研究や大学運営改善に反映させる。 ②教員の個人業績評価を給与に反映させる。	1-1	【平成23年度計画】 【大学自己点検・評価】 ○大学運営については業務評価の自己点検・評価する。 ・大学運営については業務実績自己評価を厳格に実施し、評価結果を次期年度に反映させ大学運営の改善向上につなげる。 ・自己点検・評価結果は学内外に公表する。 ・学外評価機関による評価結果を大学運営に反映させるための検討を行うとともに、結果を公表する。	1	【平成23年度の実施状況】 ○業務実績報告に係る自己評価については、前年度の評価結果を踏まえ、より厳格に行ったが評価委員会の評価と相違するものがあった。 ○自己評価及び評価結果は全学説明会において教職員に周知するとともに、業務実績報告書としてホームページに掲載した。 ○新メンバーにより第2次自己点検・評価部会を結成し、学外認証評価機関が行った評価結果(HPで公表中)を教育研究や大学運営改善に反映させるべく検討を重ねている(平成23年度委員会開催実績9回)	B	法人運営に関しては、県評価委員会の評価を基に厳格に自己評価を行い改善に努めている。また、新たな自己点検・評価委員会を結成し、教育研究や大学運営改善について継続的に検討するなど、概ね年度計画を達成した。			54
		1-2	【平成23年度計画】 【評価委員会等の評価結果の反映】 ○評価委員会の評価結果は、法人にとり最優先の対応を要する事項として学内発表を行い、速やかに大学運営に係る諸施策への反映を進める。 ・評価結果は受領次第、全学説明会において全教職員にその内容を周知せしめる。 ・改善を求める指摘については、速やかに対応策を講じる。	1	【平成23年度の実施状況】 ○評価委員会の評価結果、他の2大学との評価の比較、本学の課題などについて、全学説明会で学長が教職員に説明・周知した。 ○評価委員会での評価が低かった業務運営における防災計画の策定については、直ちに、安全防災委員会で検討し、防災計画を策定するなど、評価結果を大学運営に反映させた。	B	評価委員会の評価結果、これによる大学運営の課題を直ちに教職員に周知したこと、また計画未達成と判断された防災計画も策定した。			55
		1-3	【平成23年度計画】 【個人業績評価の給与への反映】 ○過去5年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与反映方式を確立する。 ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。	1	【平成23年度の実施状況】 ○法人・大学に特に貢献した活動を行った教員2名に特別賞を与えた。 ○個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せする現行制度を継続した。 ○個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導(分野長同席)を継続して行った。	B	個人業績評価により教員の給与への反映を実施しており、計画どおり進んだ。			56

中期計画		平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
			1		<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学評価・学位授与機構による外部評価に向け、H18年度には自己点検・評価作業部会を、また、H20年度には学長直属の認証評価委員会を設置し、大学自らが自己点検・評価を行える体制を整え、受審のための具体的な準備を進めた。その結果、H22年度に実施された認証評価においては、「大学評価基準を満たしている」との評価がなされた。 ・公立大学法人評価委員会から受けた評価結果については、毎年全学説明会において学長が教職員に周知するとともに、業務実績報告書としてホームページへの掲載を行ってきたところであり、これらの取組を通じて運営の改善につなげてきた。 ・H18年度の試行結果をもとに、個人業績評価を給与に反映する仕組みをH19年度に導入、その後特別賞の創設等システムの充実を図りながら、同制度の着実な運用を行った。 ・H21年度からは、個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を開始した。 	A	大学における評価に関しては、年度ごとに体制の強化を図り、常なる改善に努めてきた。		中期 35		
		ウェイト総計	中期 1	23年度 3			項目数計	中期 1	23年度 3		

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)

評価に関する特記事項(平成23年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 7 情報公開</p>	<p>「情報公開を積極的に推進する。」 入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。 ・大学や教員の評価に関する情報 ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報 ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報 ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報 ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報 ・予算や決算など財務に関する情報</p>
------------------------	---

項目	実施事項	平成23年度計画	ウェイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号			
			中期	年度		中期 変更	年度		中期	年度		
1. 情報公開等の推進 情報の公開・提供の推進及び個人情報保護	1【情報公開に関するガイドラインの作成および情報公開の積極的な推進】 ①大学情報の積極的な公開を推進するために、情報公開に関するガイドラインの作成を検討する。また、常に新しい、充実した内容が掲載されるよう、ホームページの充実を図っていく。 ②シラバス、研究成果、入試情報、事業計画、中期計画、組織・運営情報などの各種情報を広く公表する。	1-1【平成23年度計画】 【ガイドラインの実施】 ○広報・情報委員会を中心に、法人・大学情報の積極的な公開を推進する。 ・広報・情報委員会を中心に本学として公開が望ましい情報を整理し、H23年度から大学の教育研究活動等の情報についても、ホームページを通して公表を行う。 ・ホームページを通じた情報公開を拡充する。 ・策定されたガイドラインや運用ルールを学内周知する。 ・職員に対して、情報公開に関する研修を実施する。	1	1	【平成23年度の実施状況】 ○広報・情報委員会に専門部会を設置し情報公開に対応した。 ○教育研究活動等の情報については、専門部会が公立大学協会のガイドラインに沿って作業を進め、公開する情報を整理するとともにホームページを通して公表した。 ○ガイドラインや運用ルールについて、学内に周知した。 ○情報公開の意義等について、全学説明会で説明・啓発した。	B			57			
		1-2【平成23年度計画】 【ホームページの充実】 ○常に内容が新しく、見る者をひきつけるホームページ作りを推進する。 ・英文化、保護者欄などを利用し、情報提供の主たる手段として内容を充実する。 ・稼働実態の把握のため運用関連計数の把握・分析を検討する。 ・アクセス件数が前年比増加するような創意工夫する。 (アクセス件数 160,000件以上)			【平成23年度の実施状況】 ○英文化したホームページの内容更新を行なうとともに、保護者欄や一般・企業欄を活用し最新の大学情報を提供した。 ○「受験者向け」、「保護者向け」等の対象者別の公開情報を絶えず検証・分析し、大学として発信したい情報、外部から求められる情報の提供に努めた。 ○23年度アクセス件数は、159,476件(22年度 151,681件)					B		58
					【中期目標期間の実施状況】 ・ガイドラインは県の関係規程を準拠し、大学及び附属病院のホームページを全面改修し、更新した。(H18) ・法人の情報公開・広報活動を統括する組織として広報委員会を新設した。ホームページの運用管理要領並びにガイドラインを策定し、専門部会による趣旨徹底を実施した。ホームページは、豊富な新着情報や「附属病院」、「0-shidaiゼミ」欄の新設等の内容の充実が図られ、法人による広報活動の中核の役割を果たすようになった。e-learning推進のため採用した嘱託職員をホームページの運用管理にも活用し、円滑な稼働を行った。(H19) ・広報委員会を広報・情報委員会(年2回開催)に改編した。法人情報の公開、ホームページの運用・管理方法を策定した。さらにホームページによる情報公開やメールリスト設置のガイドラインを定めた。ホームページのカラー内更新は、担当責任部署で行うことを決定した。さらに、広報・情報委員会のもとに「ホームページ専門部会」を設置して運用の適正な管理を行った。一般の方が見易く分かり易くする工夫として、各対象者別に保護者欄や一般・企業欄を新設し情報を提供した。トップページ上に重要な「お知らせ」が一覧表示されるようになった。(H20) ・ホームページ内容ごとに事務の担当責任部署を明確にした。統括部署が内容を確認するなど運用管理体制を改善した。その結果、公開が望ましい情報や新着情報の提供を円滑に行うことができた。H20年度に策定されたガイドラインや運用ルールを学内専用ホームページに掲載し、引き続き周知に努めた。また、全教職員に対して、情報公開に関する研修を行った。(H21-23)							

中期計画		ウエイト		計画の実施状況	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	平成23年度計画	中期 年度		中期 ↓ 年度 変更	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
1.	2【個人情報保護の徹底】 福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に努める。そのために、教職員に対し、個人情報保護に関する意識を徹底させる。また、コンピューターからの情報漏洩を防ぐため、インターネット等のセキュリティの強化を図る。	2-1【平成23年度計画】 【職員に対する啓発活動】 ○福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に継続して努める。 ・職員に対し、個人情報保護に関する研修を実施する。	1	【平成23年度の実施状況】 ○個人情報の適正な管理のため、拡大役員会等を通じて職員に対してその重要性等を再認識させた。 ○個人情報保護の重要性や情報公開の意義等について、全学説明会で説明した。	B	個人情報保護については機会あるごとに注意喚起するとともに、全職員に対し重要性を再認識させるなど、概ね年度計画を達成した。		59	
		2-2【平成23年度計画】 【インターネット等のセキュリティの強化】 ○インターネット等のセキュリティを引き続き強化し、法人システムの安全運用を確保する。 ・外からの不正侵入、内からの不正漏洩、内部関係者の不正データ採取を防止するため、ハード・ソフト両面に導入したセキュリティシステムを、引き続き維持強化する。 ・システム運用状況を管理・監視する仕組みを継続検討する。 ・他大学におけるセキュリティ管理状況の情報収集を行う。	1	【平成23年度の実施状況】 ○現行のセキュリティシステムを維持・運用することにより、適正な情報管理と安全運用に努めた。 ○システム運用状況を管理・監視する仕組みについては、新たに設置する企画広報班の一つの機能とする方向で検討を行った。 ○公立大学協会情報部会が主催する情報セキュリティセミナーに引き続き参加し、必要な情報の収集を行った。 ○新たなセキュリティポリシーの策定及び情報マネジメントの構築に向け、他大学等から情報を取っている。	B	現行システムの維持により安全を確保している。また、情報マネジメント及び情報セキュリティの強化のための課題や方策を検討しているなど、概ね年度計画は達成した。		60	
			1	【中期目標期間の実施状況】 ・事務局ネットワークを学内LANに収容した際に、ファイアーウォールを設置し、事務局内の情報が他のネットワークに漏洩しないための対策を施しセキュリティを強化した。本館に新システムを構築した。福岡県個人情報保護条例に準じた個人情報保護方針を「広報委員会」において策定した。全職員にその趣旨を徹底するために、H19年度には福岡県県民情報広報課の協力を得て12月に「個人情報・情報公開研修会」を開催した。患者情報の管理については「診療情報に関するガイドライン」に従った取扱いを徹底した。新本館移転後に稼働した新システムに、新たに「ファイアーウォール」機器を導入し、厳格なセキュリティ管理を実施した。H18年度に導入した旧システムの「ファイアーウォール」機器は、「三大学財務システム」に活用し、三大学の財務・会計情報のセキュリティ管理を強化した。内部PC間ウイルス蔓延や「ウィニイ」による不正データ採取を防ぐため、学内全PCにセキュリティソフト「ウイルスバスター」を配付し、情報システムの安全運用を図った。(H18-19) ・前年度に引き続き個人情報保護及び情報公開の趣旨を徹底するために、大学内全職員に対して、福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎えて研修会を開催した。附属病院のカルテなど、個人情報に関する文書を選別した上で、病院職員に対し適正な取扱いを個別に指導した。H18年度に整備したゲートウェイ対策を引き続き維持運用した。クライアント対策についても、法人で対策ソフトを一括導入した。学内のパソコンの運用を管理・監視する方法として、集中管理システムを導入して、一括管理・監視方式を検討した。法人セキュリティポリシー及び情報マネジメントの運用体制について、他大学の情報収集を行い検討を行っている。(H20-23)	B	中期計画目標は概ね達成されている	中期	37	
	ウエイト総計	中期 23年度	2 4		項目数計	中期 23年度	2 4		

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

情報公開に関する特記事項(平成18年度～平成22年度)
情報公開に関する特記事項(平成23年度)

項目別の状況(年度計画項目)

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
		費用の部	3,309	3,306	▲ 3
		経常費用	3,309	3,304	▲ 5
		業務費	3,049	3,048	▲ 1
		教育研究経費	383	431	47
		診療経費	719	717	▲ 1
		受託研究費等	20	19	▲ 1
		人件費	1,926	1,880	▲ 46
		一般管理費	259	255	▲ 3
		(減価償却費 再掲)	(149)	(225)	(75)
		財務費用	0	0	0
		雑損	—	0	0
		臨時損失	—	2	2
		収益の部	3,325	3,529	203
		経常収益	3,325	3,356	31
		運営費交付金収益	1,473	1,493	19
		授業料収益	373	367	▲ 6
		入学金収益	64	60	▲ 4
		検定料収益	8	10	2
		附属病院収益	1,150	1,128	▲ 21
		受託研究等収益	7	21	14
		補助金等収益	57	57	0
		寄附金収益	15	8	▲ 6
		その他の業務収益	—	1	1
		資産見返運営費交付金等戻入	33	10	▲ 22
		資産見返補助金等戻入	73	124	51
		資産見返寄附金戻入	9	9	0
		資産見返物品受贈額戻入	13	12	0
		財務収益	0	0	0
		雑益	46	49	3
		臨時利益	—	172	172
		当期純利益	15	222	207

	2. 資金計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		資金支出	3,411	3,651	240	
		業務活動による支出	3,131	3,183	52	
		投資活動による支出	262	450	187	
		財務活動による支出	17	17	0	
		資金収入	3,427	3,360	▲ 67	
		業務活動による収入	3,427	3,359	▲ 67	
		運営費交付金収入	1,469	1,469	0	
		授業料収入	373	363	▲ 9	
		入学金収入	64	58	▲ 6	
		検定料収入	8	10	2	
		附属病院収入	1,150	1,129	▲ 20	
		受託研究等収入	7	14	7	
		補助金等収入	292	260	▲ 31	
		寄附金収入	15	9	▲ 5	
		その他の収入	46	56	10	
		預り金等の純増加額	—	▲ 14	▲ 14	
		投資活動による収入	0	0	0	
		財務活動による収入	—	—	—	
		資金増加額	16	▲ 291	▲ 308	
II 短期借入金の限度額	1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入すること。			該当なし		—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし		—
IV 剰余金の用途	教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。			平成22年度剰余金114,039,827円を目的積立金とした。 目的積立金224,663,035円を取り崩し、以下のとおり教育及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 活用内容 ・附属病院における診療機器の更新 ・施設改修		—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし			該当なし		—

項目別の状況

その他中期計画において定める事項

中期計画		計画		実績		自己評価
I 収支計画予算 及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(単位:百万円)		(単位:百万円)		
		区分	金額	区分	金額	
		費用の部	18,410	費用の部	19,850	
		業務費	16,965	業務費	18,141	
		教育研究経費	1,931	教育研究経費	2,509	
		診療経費	2,987	診療経費	3,928	
		人件費	12,047	受託研究費等	63	
		一般管理費	1,445	人件費	11,640	
		(減価償却費 再掲)	(581)	一般管理費	1,487	
				(減価償却費 再掲)	(1,036)	
		収益の部	18,410	財務費用	12	
		運営費交付金収益	8,337	雑損	4	
		授業料収益	2,187	臨時損失	204	
		入学金収益	282			
		検定料収益	101	収益の部	20,618	
		附属病院収益	6,178	運営費交付金収益	9,376	
		補助金収益	558	授業料収益	2,055	
		雑益	86	入学金収益	350	
		受託研究等収益	100	検定料収益	56	
		寄附金収益	0	附属病院収益	6,547	
		資産見返運営費交付金等戻入	59	補助金収益	629	
		資産見返補助金戻入	355	雑益	252	
		資産見返物品受贈額戻入	167	受託研究等収益	84	
		純利益	0	寄附金収益	81	
				資産見返運営費交付金等戻入	35	
				資産見返補助金戻入	536	
				資産見返寄付金戻入	33	
				資産見返物品受贈額戻入	148	
				財務収益	4	
				その他の業務収益	4	
				臨時利益	420	
				純利益	767	
				※増減の主な理由 ■費用の部 ・教育研究経費 学科新設に伴う教材費等の増による ・診療経費 医療機器購入費、診療材料費等の増による ・人件費 県派遣職員数減、給与改定等に伴う教職員人件費の減による ■収益の部 ・運営費交付金収益 特別交付金措置等に伴う収入増による ・授業料収益 授業料減免措置に伴う収入の減による ・附属病院収益 入院・外来患者数増に伴う収入増による ・雑益 科研費間接経費収入増等に伴う収入増による		

中期計画		計画	実績	自己評価																																																																		
I 収支計画予算 及び資金計画予算	2. 資金計画予算	(単位:百万円)																																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出</td> <td>18,673</td> </tr> <tr> <td>業務活動による支出</td> <td>17,829</td> </tr> <tr> <td>投資活動による支出</td> <td>844</td> </tr> <tr> <td>財務活動による支出</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>資金収入</td> <td>18,673</td> </tr> <tr> <td>業務活動による収入</td> <td>18,005</td> </tr> <tr> <td>運営費交付金による収入</td> <td>8,514</td> </tr> <tr> <td>授業料等による収入</td> <td>2,569</td> </tr> <tr> <td>附属病院収入</td> <td>6,178</td> </tr> <tr> <td>補助金による収入</td> <td>558</td> </tr> <tr> <td>受託研究等による収入</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>その他収入</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>投資活動による収入</td> <td>668</td> </tr> <tr> <td>財務活動による収入</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分		金額	資金支出	18,673	業務活動による支出	17,829	投資活動による支出	844	財務活動による支出	0	資金収入	18,673	業務活動による収入	18,005	運営費交付金による収入	8,514	授業料等による収入	2,569	附属病院収入	6,178	補助金による収入	558	受託研究等による収入	100	その他収入	86	投資活動による収入	668	財務活動による収入	0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出</td> <td>20,595</td> </tr> <tr> <td>業務活動による支出</td> <td>18,308</td> </tr> <tr> <td>投資活動による支出</td> <td>1,441</td> </tr> <tr> <td>財務活動による支出</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>次期中期目標期間への繰越金</td> <td>575</td> </tr> <tr> <td>資金収入</td> <td>20,595</td> </tr> <tr> <td>業務活動による収入</td> <td>19,937</td> </tr> <tr> <td>運営費交付金による収入</td> <td>9,547</td> </tr> <tr> <td>授業料等による収入</td> <td>2,524</td> </tr> <tr> <td>附属病院収入</td> <td>6,483</td> </tr> <tr> <td>補助金による収入</td> <td>891</td> </tr> <tr> <td>受託研究等による収入</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>寄付金収入</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>その他収入</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>預り金等の純増加額</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>投資活動による収入</td> <td>658</td> </tr> <tr> <td>財務活動による収入</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>前期中期目標期間よりの繰越金</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	資金支出	20,595	業務活動による支出	18,308	投資活動による支出	1,441	財務活動による支出	270	次期中期目標期間への繰越金	575	資金収入	20,595	業務活動による収入	19,937	運営費交付金による収入	9,547	授業料等による収入	2,524	附属病院収入	6,483	補助金による収入	891	受託研究等による収入	78	寄付金収入	107	その他収入	285	預り金等の純増加額	18	投資活動による収入	658	財務活動による収入	0
区分	金額																																																																					
資金支出	18,673																																																																					
業務活動による支出	17,829																																																																					
投資活動による支出	844																																																																					
財務活動による支出	0																																																																					
資金収入	18,673																																																																					
業務活動による収入	18,005																																																																					
運営費交付金による収入	8,514																																																																					
授業料等による収入	2,569																																																																					
附属病院収入	6,178																																																																					
補助金による収入	558																																																																					
受託研究等による収入	100																																																																					
その他収入	86																																																																					
投資活動による収入	668																																																																					
財務活動による収入	0																																																																					
区分	金額																																																																					
資金支出	20,595																																																																					
業務活動による支出	18,308																																																																					
投資活動による支出	1,441																																																																					
財務活動による支出	270																																																																					
次期中期目標期間への繰越金	575																																																																					
資金収入	20,595																																																																					
業務活動による収入	19,937																																																																					
運営費交付金による収入	9,547																																																																					
授業料等による収入	2,524																																																																					
附属病院収入	6,483																																																																					
補助金による収入	891																																																																					
受託研究等による収入	78																																																																					
寄付金収入	107																																																																					
その他収入	285																																																																					
預り金等の純増加額	18																																																																					
投資活動による収入	658																																																																					
財務活動による収入	0																																																																					
前期中期目標期間よりの繰越金																																																																						
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	該当無し		-																																																																		
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	なし	該当無し		-																																																																		
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度から平成23年度までに取り崩した教育研究診療等改善目的積立金合計417百万円を、次のとおり教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 ・平成20年度 医療事務システムほか 42百万円 ・平成21年度 医療機器 25百万円 ・平成22年度 医療機器、研究機器、ホルムアルデヒド対策工事ほか 124百万円 ・平成23年度 医療機器、動物実験施設空調設備改修ほか 224百万円 		-																																																																		
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1. 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画 なし 2. その他法人の業務に関し必要な事項 なし	該当なし		-																																																																		

項目別の状況(中期目標項目)

中期目標項目	法人 自己評価
1. 教育	<p>【平成23年度】今年度もFDを通して「教育方法の改善」及び「カリキュラム改編」を中心に教育力の向上に努めた。さらに、歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出することに傾注し、国家試験成績の向上を目指した。この点に関しては、学部長のもと教授会・教務部会・学年主任制度が一丸となって、学部教育に取り組んだ。昨年度に開始した九州工業大学との歯工学連携においては、単位互換制度を活用する学生が増加している一方、平成22年度に開設した口腔保健学科に関しては、4年間のカリキュラム編成を終了し、病院実習のシラバスも完成した。</p> <p>【中期目標期間】学部長のリーダーシップのもと、教務部会が中心となりFDを通して「教育方法の改善」及び「カリキュラム改編」を中心に教育力の向上に努めた。さらに、歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出することに傾注し、国家試験成績の向上を目指した。学部長のもと教授会・教務部会・学年主任制度が一丸となって、学部教育に取り組んだ。九州工業大学との歯工学連携大学院プログラムは順調に発展しており、単位互換制度を活用する学生が増加している。平成22年度に開設した口腔保健学科は、中期目標どおり1、2年次生教育を進めてきた。</p>
2. 研究	<p>【平成23年度】社会の発展と歯科技術の向上を目指した研究活動を進めた結果、外国雑誌掲載の研究論文や国際学会での発表数、さらに外部資金獲得額も目標を上回った。九州工業大学との共同研究成果については、ソウル大学・九州歯科大学・九州工業大学の3大学合同で国際シンポジウム(九州歯科大学主催)を開催し、歯工学連携の研究成果を世界に向けて発信した。</p> <p>【中期目標期間】中期計画の目標である社会の発展と歯科技術の向上を目指した研究活動を進めた結果、外国雑誌掲載の研究論文や国際学会での発表数、さらに外部資金獲得額も中期計画期間を通して目標を上回った。九州工業大学との歯工学連携も順調に成果を出してきつとあり、共同研究成果については、ソウル大学・九州歯科大学・九州工業大学の3大学合同で国際シンポジウム(九州歯科大学主催)を開催し、歯工学連携の研究成果を世界に向けて発信することができた。</p>
3. 社会貢献	<p>【平成23年度】平成21年度から開始した附属病院の診療科再編を終え、より地域中核病院としての体制を強化した。特に、病診連携体制を充実させ、紹介率の向上を目指した。さらに、ネパール歯科医療協力隊の活動を継続し、海外における歯科保健活動を展開した。今年度においては学部学生にこの活動への参加を呼びかけ、冬隊に1名の学生が参加し、アジアにおける歯科保健活動を経験した。</p> <p>【中期目標期間】中期目標に掲げている地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施にむけて、中期計画期間を通じて様々な取り組みを行った。平成21年度から開始した附属病院の診療科再編を終え、より地域中核病院としての体制を強化した。特に、病診連携体制を充実させ、紹介率の向上を目指した。さらに、ネパール歯科医療協力隊の活動を継続し、海外における歯科保健活動を展開した。H22年度からは学部学生にこの活動への参加を呼びかけ、アジアにおける歯科保健活動を経験し教育にも貢献できた。</p>
4. 業務運営	<p>【平成23年度】大学の教育研究目標に沿って、弾力的かつ計画的な人員配置、予算配分を行った。目的積立金を活用し、附属病院において設備更新計画に基づく機器の更新や設備の改修等を行った。将来の自律的法人運営を見据え、事務局機能を強化するため、次期中期計画期間の開始に合わせ平成24年度からプロパー職員を採用し、専門性を有する事務職員の育成を図ることとした。また、定められた制度の規定に従い、23年度末に任期を迎える教員のうち再任を希望する教員全員について、再任審査会で審査を行い全員再任した。</p> <p>【中期目標期間】大学の教育研究目標に沿って、弾力的かつ計画的な人員配置、予算配分を行った。目的積立金を活用し、附属病院において設備更新計画に基づく機器の更新や設備の改修等を行った。事務の効率化を図るために、業務の外部委託を進めた。事務局機能の強化に向け、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員採用計画を策定した。</p>
5. 財務	<p>【平成23年度】法人経費の多くを占める人件費について、教員数の慎重な管理等により運営交付金枠内で執行できたことや、外部資金が昨年度を上回り順調に獲得できたことで、法人の財務は引き続き安定した執行となった。病院収入に関しては、診療報酬額は前年度を下回った。検診分野の収入は伸び悩んでいるが、訪問診療の件数は順調に伸びている。受診者の満足度は目標を大きく上回っている。診療材料費及び一般保険診療の材料費比率はほぼ前年度並となったが、SPDにより見直しは着実に進んでいる。</p> <p>【中期目標期間】人件費の適正な管理や、外部資金の積極的な獲得などにより、法人の財務は安定的に執行されてきた。病院収入に関しては、診療報酬額の伸び悩みという問題もあるが、患者紹介率の向上や訪問診療の件数の伸びといった成果も見られている。また、SPDにより、診療材料費の節減は着実に効果が表れてきている。</p>
6. 評価	<p>【平成23年度】外部認証評価結果を教育研究や大学運営の改善につなげるため、自己評価部会による検討を鋭意行ってきた。また、県の公立大学法人評価委員会の評価結果については、全学説明会で周知し、特に評価結果が低かった項目についてはその対応を行った。個人業績評価に関しては、法人・大学に特に貢献した活動を行った教員へ特別賞を与えるなど、評価方法の見直しを行い給与に反映している。</p> <p>【中期目標期間】外部認証評価については、大学評価・学位授与機構の審査を受けた結果、「基準を満たしている」という総合評価を受け、「改善を要する点」が0という評価結果になった。また、県の公立大学法人評価委員会の評価結果については、毎年全学説明会で周知し、特に評価結果が低かった項目についてはその対応を行い改善を図っていった。個人業績評価に関しては、適宜評価方法を見直すことによって制度の充実を図ってきており、給与支給にも反映を行っている。</p>
7. 情報公開	<p>【平成23年度】教育研究活動情報の公表の義務化に向け、広報・情報委員会に専門部会を設置し、公立大学協会のガイドラインに沿って準備を行い、23年3月末にホームページでの公開及び公立大学協会ホームページへのリンクが完了し、これにより積極的に大学情報の公開が行えるようになった。教職員に対しては、引き続き研修会を開催し、情報公開の意義や個人情報保護の重要性等の啓発を行った。</p> <p>【中期目標期間】中期目標に掲げる情報公開等の推進と個人情報保護の遵守を完遂すべく中期計画期間を通じて様々な取り組みを行った。教育研究活動情報の公表の義務化に向け、広報・情報委員会に専門部会を設置し、公立大学協会のガイドラインに沿って準備を行い、23年3月末にホームページでの公開及び公立大学協会ホームページへのリンクが完了した。教職員に対しては、毎年研修会を開催し、情報公開の意義や個人情報保護の重要性等の啓発を行った。</p>

全体的な状況

区分	法人 自己評価
業務の実施状況について	<p>【平成23年度】「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」という大学の使命を果たしていくために、教育面では、初年時から歯科医療人としての自覚を持たせるカリキュラムの工夫や、臨床教育システムの一層の充実に取り組んだ。また、創設2年目を迎える口腔保健学科において連携科目を導入する等新たな試みも行っている。</p> <p>歯科医師国家試験については、歯科医師過剰問題を背景として非常に厳しさを増しており、今回においてもその対策に力を入れてきたものの、合格率は全国18位という結果となった。</p> <p>研究面においては、若手教員を中心に当年度も活発な活動が続き、外部資金獲得も増加するという成果に結びついた。</p> <p>社会貢献としては、公開講座等を計画どおり実施し、この内容については、高い満足度が得られたことがアンケート結果でも表れている。</p> <p>【中期目標期間】「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する」という中期目標の下、絶えずカリキュラムや臨床教育の見直しを図る等、教育活動の充実に努めてきた結果、学生の成績(「良」以上の割合)については中期計画で定めた水準をクリアしている。</p> <p>期中、口腔保健学科の創設も行われたところであるが、2科体制による学部運営も円滑に行われ、「口の総合大学」という新たな役割にも応えてきたところである。</p> <p>研究面においては、研究費の若手教員枠の設定も功を奏し、活発な研究活動が展開されてきており、外部資金の獲得も年々増加している。</p> <p>社会貢献としては、北九州生活圏及び筑豊生活圏の基幹病院として、病診連携室を中心としてリーフレットやHP掲載等広報に努めてきたところ、患者紹介率の向上につながっている。</p>
財務状況について	<p>【平成23年度】財務は、引き続き慎重な予算運営と厳しい経費抑制を徹底し、概ね安定した運営を行うことができた。</p> <p>収入面では、平成22年度決算においては前年度から5千万円の増収があったところだが、平成23年度についてはまた従前の水準にとどまっている。</p> <p>なお、受託研究費収益は教員の努力により予算額を14百万円上回る実績を残すことができた。</p> <p>支出面においては、経費の3分の2を占める人件費の抑制を継続し、主として教員の後任配置を教育・研究活動に影響しない範囲で慎重に行ったことで、当初予算を下回る年間実績に収めることが出来た。人件費を除く経費についても、組織内の経費節減意識は高く厳格な予算運営が行われた。</p> <p>診療機器や研究設備等については、優先度に応じて目的積立金の充当による自力更新を進めたほか、健康管理室、学生相談室、就職支援室といった学生支援のための施設整備についても同積立金の活用により実施しており、法人の予算運営に特に負担を及ぼすことなく、環境改善を図ることができた。</p> <p>【中期目標期間】収入面においては、自己財源確保のための対策として、診療報酬確保対策や外部研究資金の積極的獲得、学生納付金の未納対策等実施してきた。</p> <p>また、支出面においては、特に人件費において適切な教員配置や、病院事務の外部委託化等徹底的な歳出抑制に努めてきた。</p> <p>こうした取り組みの結果、財務に関しては、健全・安定・円滑な運営を行うことができた。</p> <p>なお、病院において2件の高度先進医療に承認されたこと、及びSPDの導入による材料費の抑制が図れたことも、財務運営に寄与している。</p>
法人のマネジメントについて	<p>【平成23年度】理事長のリーダーシップのもと、主体的・自立的な大学運営を行っていくという基本姿勢に基づき、全学説明会や新規教職員のオリエンテーション、拡大役員会等節目節目において、理事長自らがメッセージを発することにより、法人構成員の理解向上に努めた。</p> <p>また、大学事務局の組織強化のため、現行の県派遣職員中心の大学運営からの脱却を図るとともにノウハウ蓄積・専門家の育成という観点から、当面5割を目途とした平成24年度以降のプロパー職員採用計画を立てた。</p> <p>【中期目標期間】大学評価・学位授与機構による外部認証評価については、平成22年度に審査を受け、「基準を満たしている」という総合評価を受けた。</p> <p>また、公益法人評価委員会評価結果については、全学説明会等を活用して課題の共有化を図るとともに、問題点については翌年度の重点取組事項としてその改善を図ってきたところである。</p> <p>今後、法人の運営戦略を中心として担っていく事務局の機能強化が求められているところであるが、そのために派遣職員依存体制を廃し、専門性を有する職員を育成していくことで組織の在り方を整理し、平成24年度以降のプロパー職員の採用計画の作成に至った。</p>
組織、業務運営等に係る改善事項について	